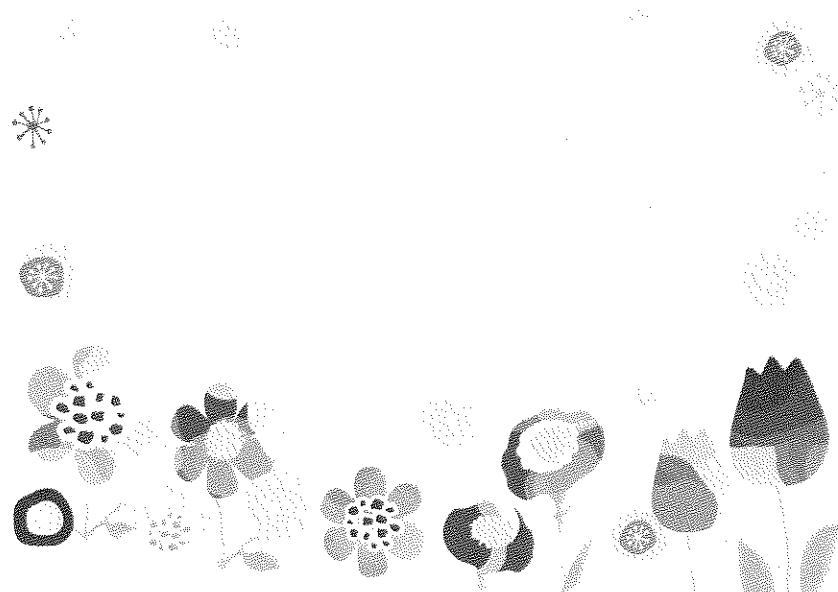


# 資料5

委員提出資料

## つどいの広場による利用者へのアンケート 2018

報告



つどいの広場ねっとわーく（八尾）

2019年9月20日

# 目次

I アンケート実施 体制について	2
II 集計結果よりみえてくること	3
1・ 利用している保護者の年齢について	3
2・ 利用している子どもの年齢	3
3・ 広場の利用頻度及び利用手段	5
4・ 広場のイメージ	7
5・ 広場がもたらす効果	9
6・ 広場があつてよかったと思うこと	10
7・ 来年度の利用	13
8・ 広場と子育てストレスの関係	13
9・ 子育ての不安や悩み	17
10・ 子育ての助けになる人	21
11・ 夫婦の子育てに関わる割合	22
12・ 育児休業について	23
III 事業推進への課題と取り組み	27

資料1 アンケート用紙

## I アンケート実施 体制について

目的	つどいの広場において、利用者の現状・広場利用に関する感想や要望などの意見の収集。意見から課題を把握し、各広場のよりよい運営をしていくため、また、ニーズに合った子育て支援につなげていくことを目的とする。
対象者	つどいの広場 利用者
実施期間	概ね 2018年11月～2018年12月 (各広場によって差異あり。)
協力広場数	八尾市 つどいの広場 15か所中 15か所
配布数	315部
回収数	315部
回収率	100%
回答者割合	母親 98.4%(310人) 父親 1.0%(3人) 祖母 0.3%(1人) 無回答 0.3%(1人)

	あ	い	う	え	お	か	き	く	け	こ	さ	し	す	せ	そ	合計
配布数	30	19	10	20	19	27	11	13	28	15	10	28	41	12	32	315
2018年登録数(12月末)	90	98	28	80	103	74	29	41	104	81	16	66	80	40	101	1031
2016年登録数(12月末)	80	82	22	92	118	98	35	55	101	76	20	117	79	77	138	1190
利用者比	33%	19%	36%	25%	18%	36%	38%	32%	27%	19%	63%	42%	51%	30%	32%	30%

### 回答者の構成

母親	310	98.4%
父親	3	1.0%
その他	1	0.3%
無回答	1	0.3%

2016年にとったアンケートを見直し、いくつかを削除し、設問順も変更した。

また新たな問い合わせをいくつか加えた。アンケートの問22以降は、各広場独自の設問としたので、その部分については、各広場の参考データとして扱う事にし、全体集計は実施していない。

## II 集計結果よりみえてくること

### 1. 利用している保護者の年齢について

表 1-1 回答者の年齢

10代	0	0.0%
20代	67	21.3%
30代	210	66.7%
40代	35	11.1%
50代	0	0.0%
60代	1	0.3%
無回答	2	0.6%

図 1-1 利用者の年齢比較

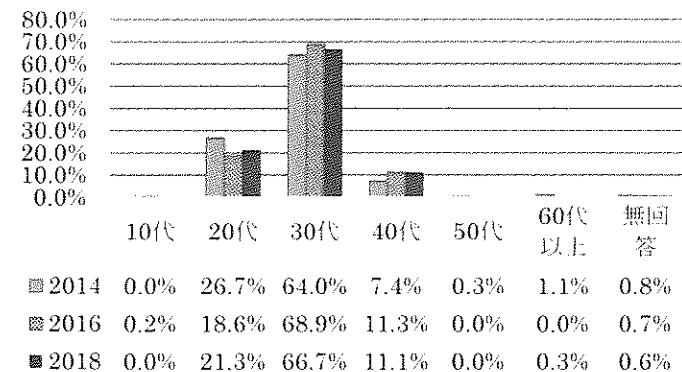


図 1-2 40代利用者の子ども

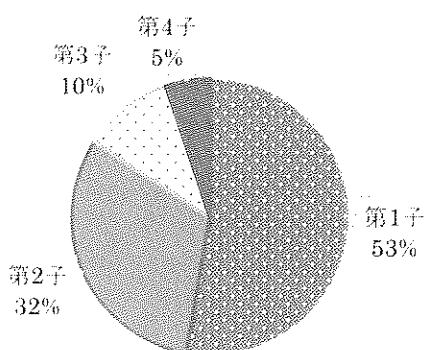


図 1-3 40代利用者の第1子の年齢分布

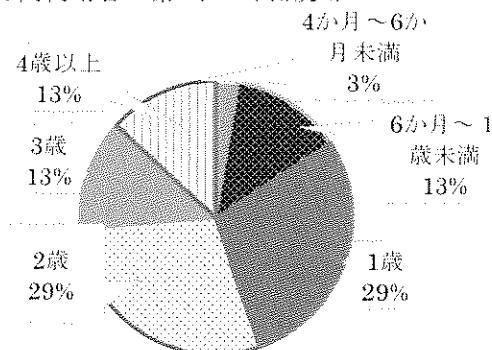


表 1-1 をみると、広場を利用している保護者の年齢は、30代が過半数を占めている。およそ 9 割近くが 20 代と 30 代である。

図 1-1 は、2014 年、2016 年の結果と比べたものである。30代は常に 6 割以上、20代は 2016 年には 2 割を下回ったが、今回は、再び 2 割を超えており、40代利用が 2016 年に 2014 年より 3.9% 増え 11% 代になり、今回も 11% 代である。もう少し詳しくみてみると図 1-2 にあるように第 1 子とともに利用する方が半数を超えており、また、その子どもの年齢も 0 歳から 2 歳で 70% 以上を占めている。これは、近年出産年齢が高年齢化していることを反映していると思われる。この傾向は、今後も続していくと推測される。

### 2. 利用している子どもの年齢

利用している子どもの年齢は、2016 年と同様に 0 歳と 1 歳で 6 割近くになっている(図 2-1)。兄弟構成は、2016 年とほとんど変わりなく第 1 子を連れての利用が最も多い。また、利用年数をみると、6 カ月～1 年が毎回少しづつ増加している(図 2-3)。園に行くまでにスムーズに人に慣れるように、人とつながれるように、短期間利用で保護者同士、子ども同士など人の関わりを求めている結果かもしれない。

図 2-4 で子どもの年齢の推移を見ると、回を追うごとに増加していた 0 歳児は、2016 年より減少、1、2、3 歳がやや増加である。4 歳以上の利用が 2016 年と比べ減少しているのは、3 歳から就園する子どもが増加したことが関係し

ていると思われる。2019年10月から3~5歳児の保育料が無償となることで、来年度から、より多くの子どもが3歳児迄の段階で就園していくと考えられるため、今後は、より0、1、2歳が中心となっていくと予想される。

図2-1 年齢分布

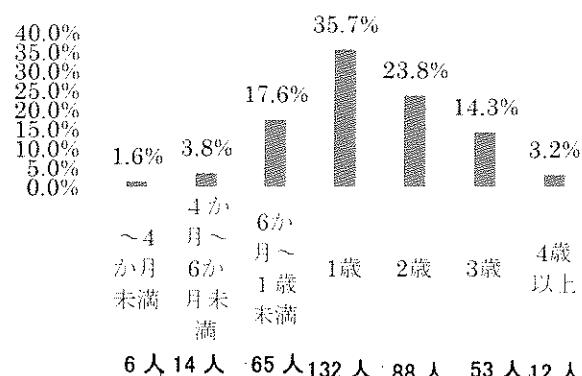


図2-2 兄弟構成

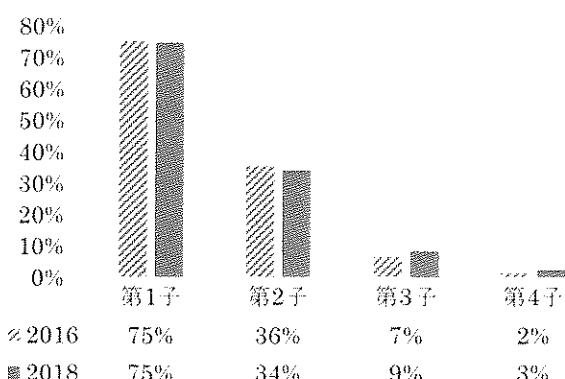


図2-3 利用年数

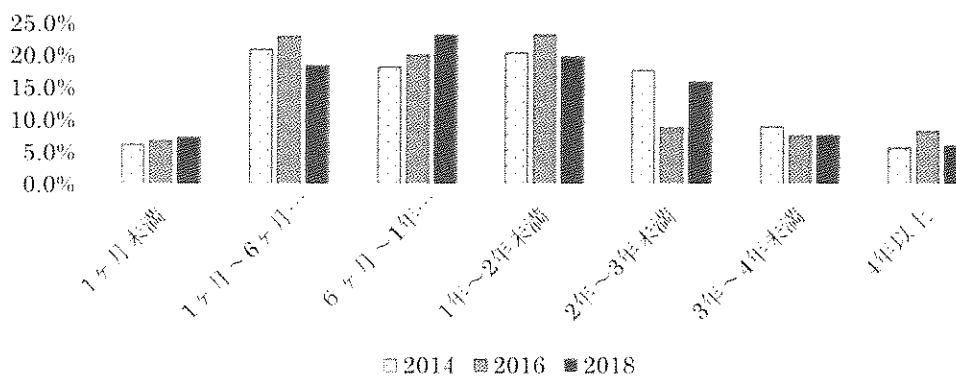


図2-4 年齢別推移

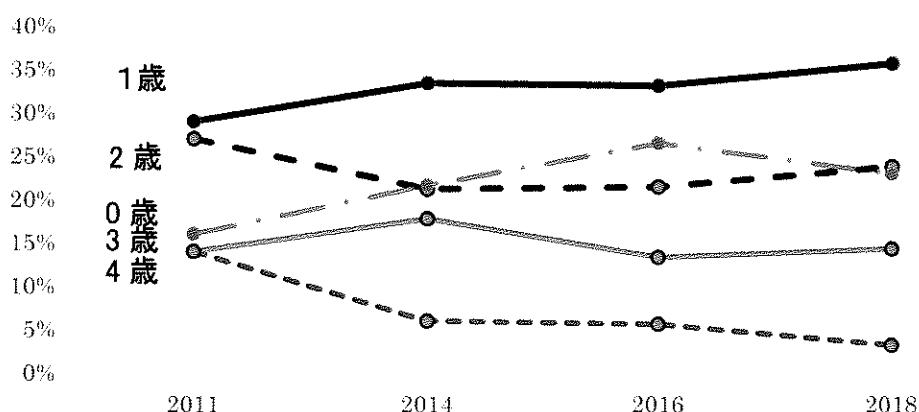
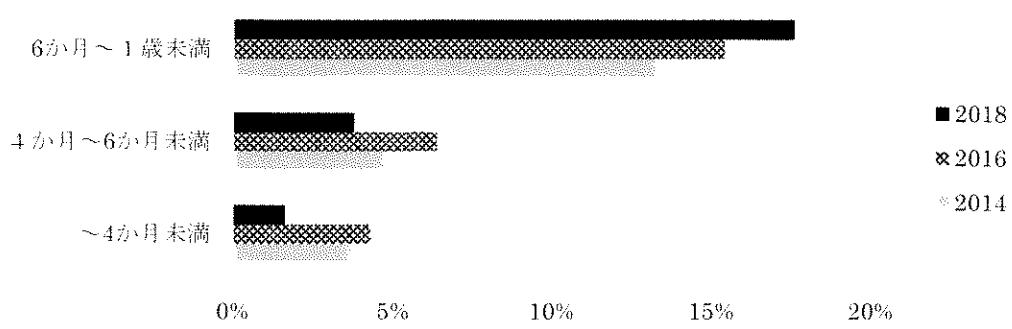


図2-5 1歳未満の利用者の推移



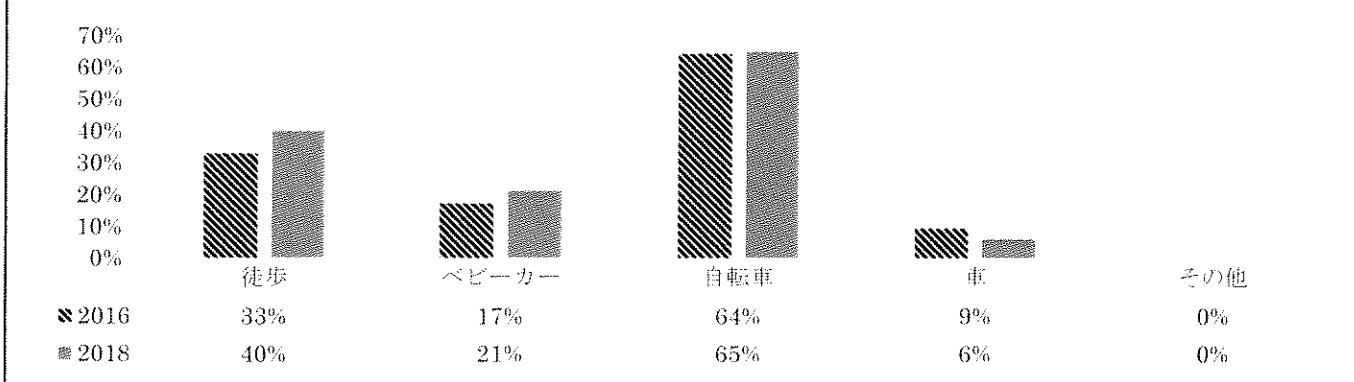
### 3. 広場の利用頻度及び利用手段

2016 年の調査時から、八尾市すべての中学校区に広場ができるて 2 回目の調査となる。

広場を利用する際に家からの移動手段として最も多いものは、自転車である(図 3-1)。次に、徒歩及びベビーカーとなっている。各中学校区に広場がある事で、抱っこ、ベビーカーあるいは一緒に歩いて立ち寄れるという利便性が表れている結果であろう。加えて、0 歳、1 歳の利用が多いことが徒歩、ベビーカーが多い理由だと思われる。同図で、2016 年度と比べてみると、自転車の利用は、ほぼ変わらないが、徒歩、ベビーカーの利用が増加している。

全ての中学校区に広場がある強みが、ここに表れているといえよう。

図3-1 利用手段



次に広場をどのように利用しているのかを見てみたい。

広場の利用頻度をみると(図 3-2)、週に4回以上が減少し、週に1~2回くらいの利用が増加している。

図3-2 利用頻度

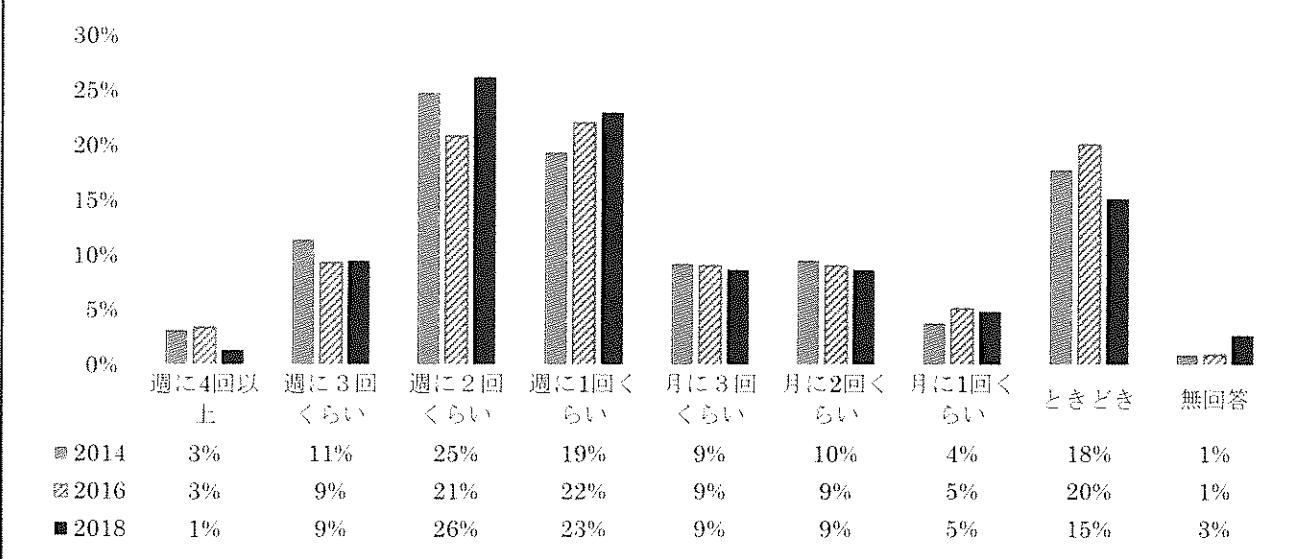


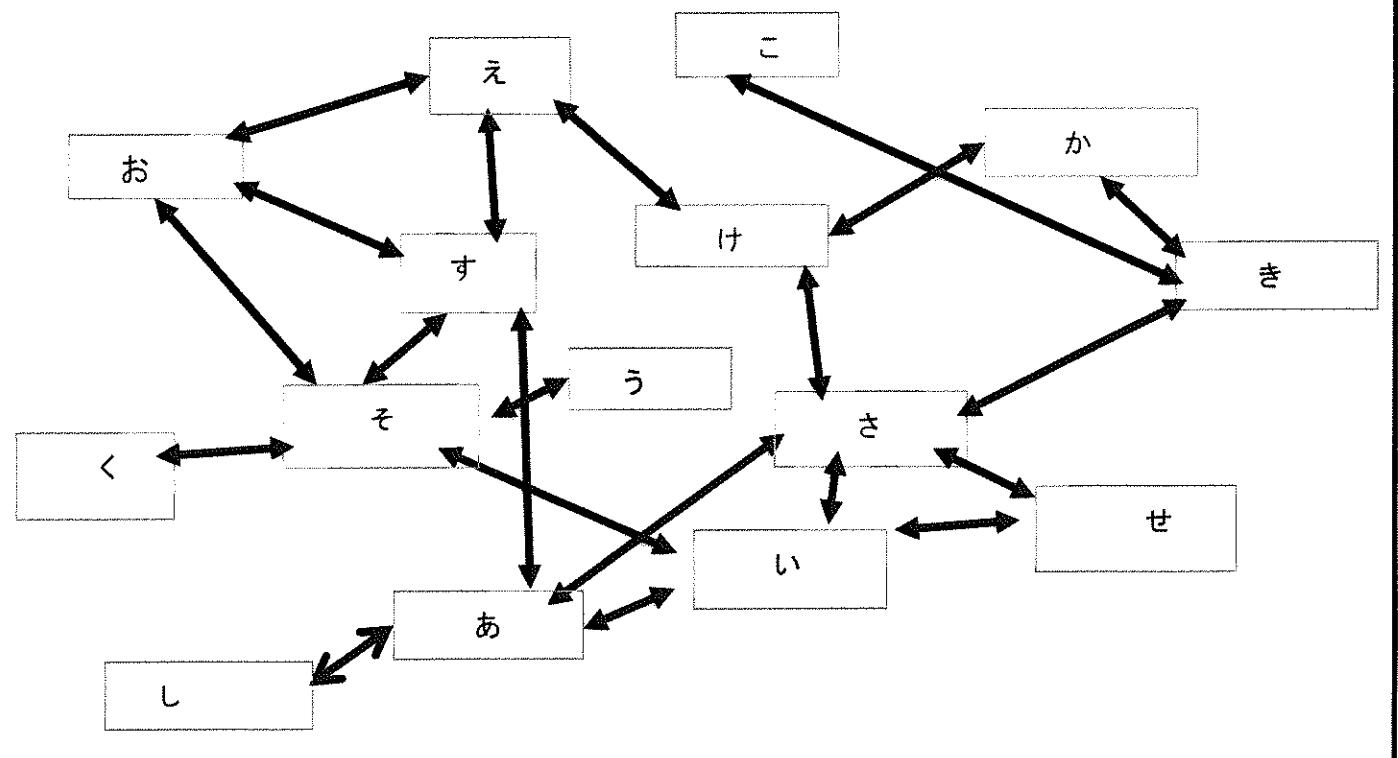
表 3-1 を見てみると、回答者がアンケートに答えた広場以外にも複数個所登録している場合がある。これは、2016 年同様である。ただし、2016 年よりも複数登録の人数が少なくなっている。これは、図 3-1 で見たように、移動手段が徒歩、ベビーカーとなると、近隣の広場に限定されてしまう結果であろう。図 3-2 と重ね合わせて考えると、通いやすい一つの広場に週に 1 回~2 回程度通うという利用者像がみえてくる。

それに加えて、図3-3をみると、複数登録している広場の重なりの多くは、近隣の広場である。広場と広場の間あたりに居住している人が、曜日が重なっていない、あるいは利用人数制限の有無等の理由で複数登録していると思われる。

表 3-1 登録している広場を教えてください。(複数回答可)

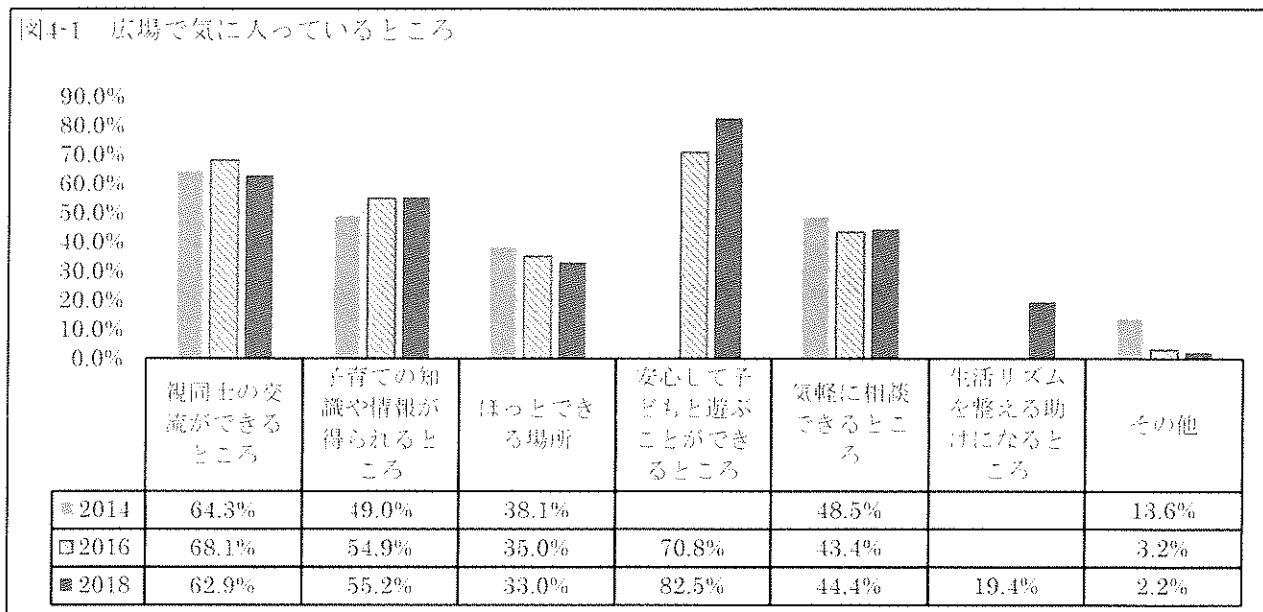
	回答数 (A)	各広場回答数 (B)	複数登録数 (A) - (B)
あ	36	30	6
い	25	18	7
う	12	10	2
え	25	20	5
お	39	19	20
か	33	27	6
き	13	11	2
く	16	13	3
け	24	15	9
こ	11	10	1
さ	33	28	5
し	42	41	1
す	44	28	16
せ	18	12	6
そ	37	32	5

• 図 3-3



#### 4. 広場のイメージ

図4-1 広場で気に入っているところ



まず、広場で気に入っているところを見てみる。

今回新たな項目として「生活リズムを整える助けになるところ」を入れたところ、約2割(61人)の人気がそう感じて利用しているという結果となった。園に行くまでの準備としての意味合いも含んでいるように思われる。

そして、「安心して子どもと遊べるところ」の項目が2016年よりも10%以上増加となり、一番高い結果となった。広場を運営する側からとしては、広場を安心できる場所と認識してもらっていることはなによりだと思う。

「気軽に相談できるところ」「子育ての知識や情報が得られる」という回答は、2016年とそれほど差はない。

一方、「親同士の交流ができるところ」62.9%(198人)「ほっとできる場所」33.0%(104人)は、2016年より割合が減少している。

特に「ほっとできる場所」については、回を追うごとに徐々に減少している点が気にかかる。

相談に関しては、「9.子育ての不安や悩み」に記載。

また、自由記述に、おもちゃについて書いている方が多くいた。0、1歳の子どもが安全で安心して遊べる広場において、おもちゃの役割は大きいと思われる。

また、その他の意見として「子育ての励みになる」というものもあった。

#### 広場の気に入っているところ「その他」の自由記述 一部抜粋

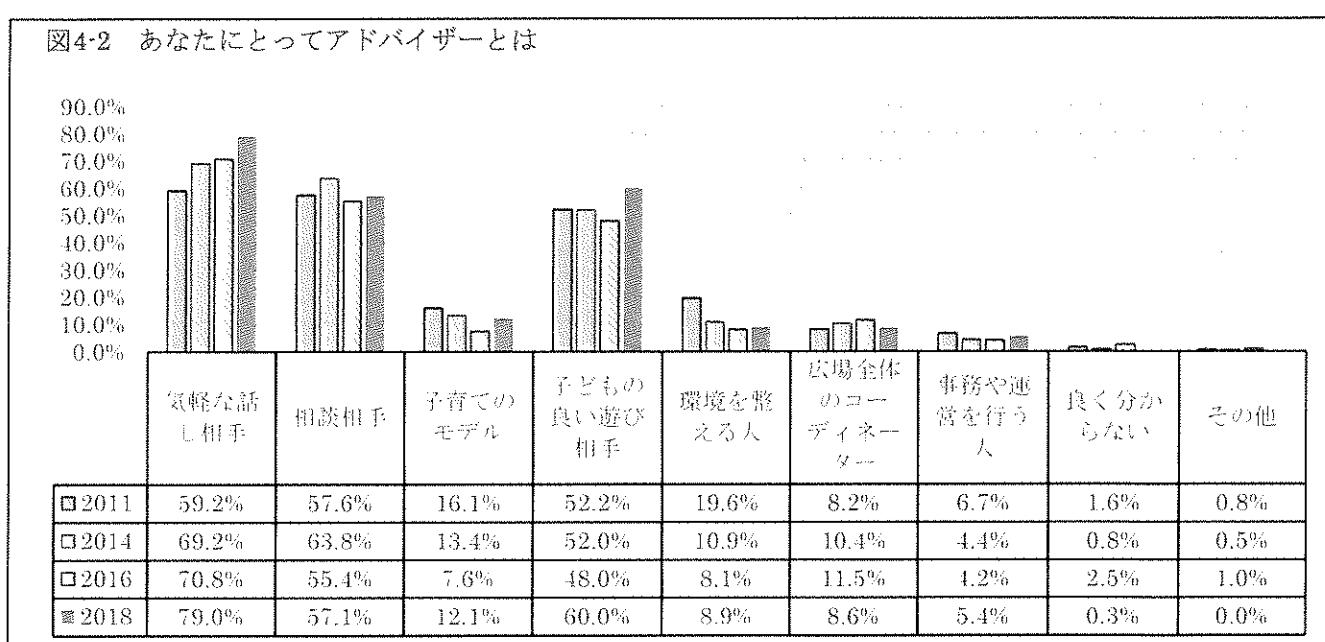
- 赤ちゃん同士遊べる。他の子を見れる。
- 子どもが、お友達と過ごせる。
- 良いアドバイザーさんばかりで、子育ての励みになるので
- 広場の担当の方々が話しやすいところ。
- 家にないおもちゃで遊べて、子どもが楽しそう。



また、今回のアンケートでも、子育てアドバイザーについてきいた。

結果は、図 4-2 に示すとおりである。

図4-2 あなたにとってアドバイザーとは

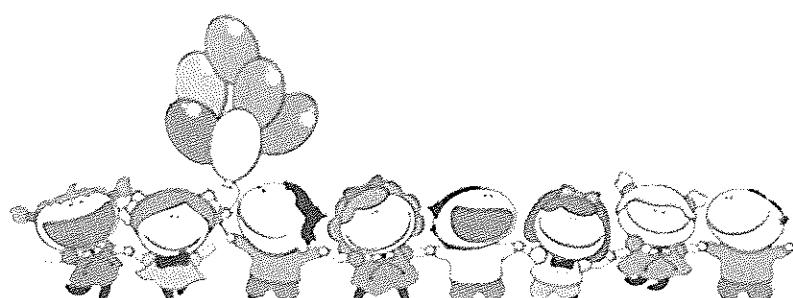


「気軽な話し相手」「子どもの良い遊び相手」「相談相手」の 3 項目が特に高いという点では、2016 年と同様である。3 項目とも、2016 年よりも増加した。特に「気軽な話し相手」(249 人)「子どもの良い遊び相手」(189 人)は、今までに一番多い割合を示している。

また、「子育てのモデル」という項目が、2016 年減少したのだが、今回の調査では、12.1%(38 人)に増加した。自由記述(表 4-2 参照)にある「頼れる先輩ママさん」というのが、子育てのロールモデルにつながっていくのではないかと感じられる。実際、広場の利用者からアドバイザーになる方がだんだんと出てきている。このことが、親近感のある子育てのロールモデルとなっているのではと思う。

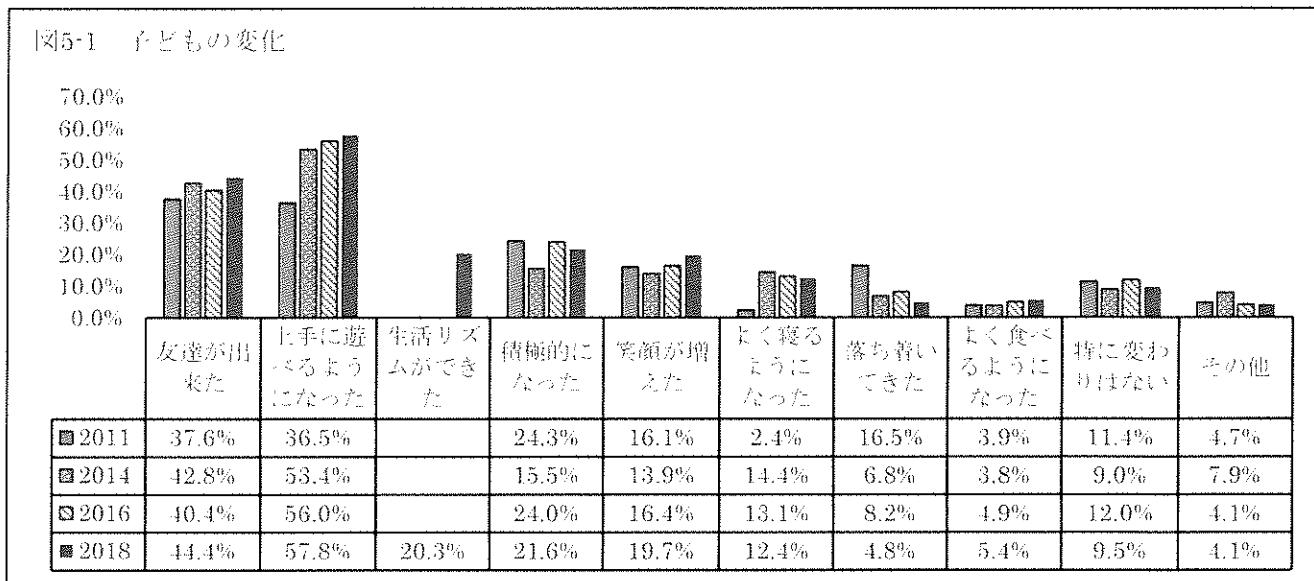
#### あなたにとってアドバイザーとは？自由記述

- 安心感をあたえてくれる
- 頼れる先輩ママさん



## 5. 広場がもたらす効果

子どもの変化と母親自身が感じている変化について、今回もほぼ同様の内容で質問している。下に示す図5-1は、子どもの変化である。



まだ利用年月が6ヶ月未満であったり、時々利用であったりする方が「特に変わりはない」と答えることが多くみられる。自由記述にも、「まだ来たばかりなので分からない」等の記述があった。

2016年と同様で、半年以上利用の方は、何らかの良い変化を感じている傾向がみられる。

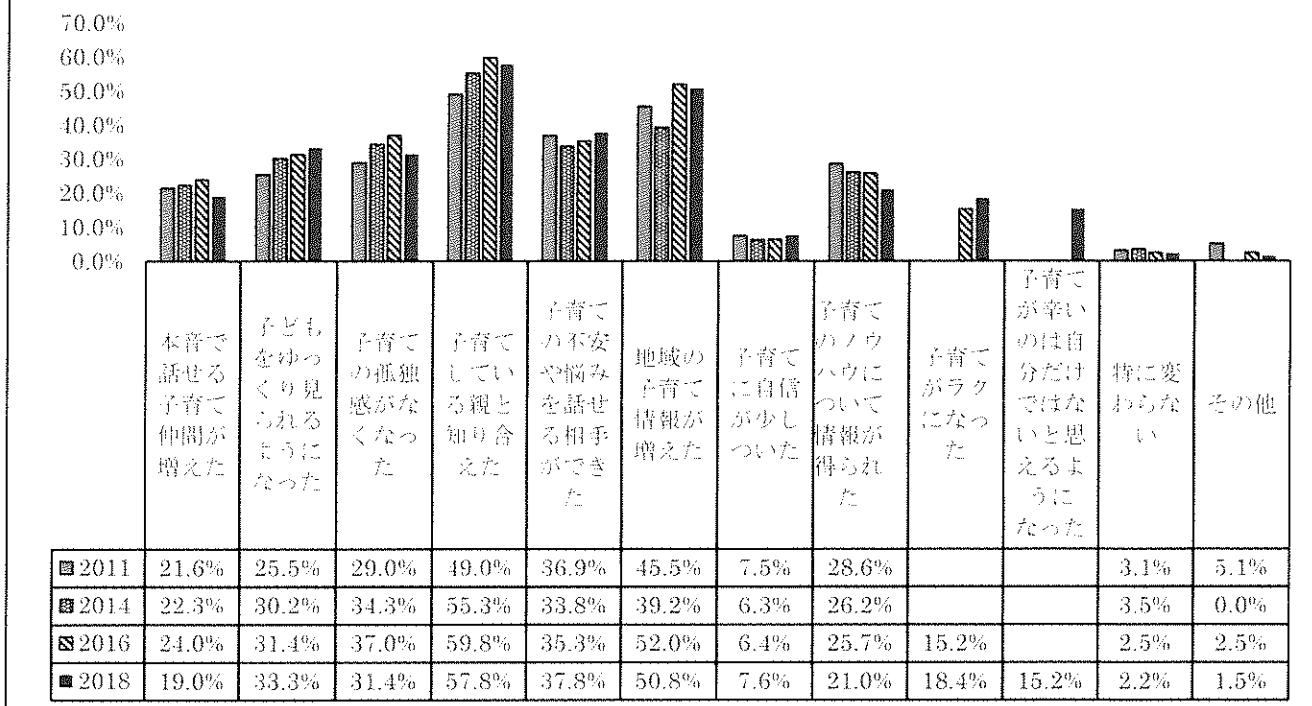
今回新たに加えた「生活リズムができた」に関しては、2割程度(64人)である。これは、先述の「生活リズムを整える助けになるところ」の結果(19.4%)とつながる割合である。

「上手に遊べるようになった」については、今回も高い結果となっている57.8%(182人)。今回は、「友達ができた」が少し増加44.4%(140人)。「笑顔が増えた」が、毎回少しづつ増加傾向にある。逆に「落ち着いてきた」の割合が減少しているのは、子どもの年齢層が低下し、どちらかというと活動的になっていく時期の子どもが増えてきた結果だと考えられる。

### 子どもの変化 自由記述

- よくしゃべるようになった。話せる言葉が増えた
- 親にべったりだったが、一人遊びが出来るようになった
- あまり大人数の所で泣かなくなった
- 他の子どもとのやり取りがスムーズになった。同年代の子どもと交流が出来た。
- ひとりっ子なので、他の子どもたちと交流する方法を学んでいる
- ゆずりあって遊べるようになった。遊びのバリエーションが増えた。
- 家におもちゃで遊べるので違う一面が見られる。
- 昼ごはん（離乳食）を食べる

図5-2 自分の変化



回答者自身の変化を見てみる(図5-2)。

2016年と同じく最も多いのが「知り合いが増えた」57.8%(182人)であるが、2016年よりもわずかに減少している。その一方で「子育ての不安や悩みを話せる相手ができた」37.8%(119人)が増加。これは、アドバイザーを「気軽な話し相手」「相談相手」とする部分が増加していることにつながっているのではないだろうか。また、「本音で話せる子育て仲間」の項目が24.0%から19.0%(60人)に減少し、「子育ての孤独感がなくなった」も31.4%(99人)に減少している。だが、2016年追加した「子育てがラクになった」については、今回3%以上増加18.4%(58人)であり、新たな項目「子育てが辛いのは自分だけではないと思えるようになった」については、15.2%(48人)となった。そして徐々に増えているのが「子どもをゆっくり見られるようになった」33.3%(105人)である。「安心して遊ぶことができる」広場で、「子どもの良い遊び相手」であるアドバイザーと遊んでいる子どもを「ゆっくり見ること」が、利用者の方の心のゆとりにつながっているのかもしれない。

## 6.広場があって良かったと思うこと

今回は、自由記述で、「広場があって良かったと思うこと」を書いてもらった

居場所として51件(一部抜粋)

- 引っ越しってきて知り合いがいなかったので話し相手が出来た
- いつでもだれかと話せる場所がある安心感がある
- 家にばかりいると子どもにきつくあたってしまうことがあるが他の人がいると、それをおさえられる
- 家や近所だけでは孤立してしまいそうな時、広場に行けば安心して遊べる
- 子どもをゆっくり遊ばせることができるし私自身も家から離れてのんびりできること
- ホッとできる場所。自分以外にも子どもを見てくれる人がいるという安心感。

#### 近くにある良さ 6 件(一部抜粋)

- 家から近いので気軽に遊びに行ける
- 近くにあって、顔見知りができるのが、良いと思いました。

#### 相談できるところ 13 件(一部抜粋)

- 子育てについての不安が色々と解消できた
- 少しの悩みも話してみた事がきっかけで色々な解決方法や地域で行っている行事等プラスアルファでの情報がきける事が多く、助かっています。
- 悩み事の相談が気軽に出来るようになった。
- 気軽に相談できて、ありがたい
- 子どもが同じ年齢の子と関われる。育児相談が出来る。

#### 情報や参考になることがある 12 件(一部抜粋)

- 子どもとどう遊んで良いのか分からなかつたが他のママさんが遊んでいる姿が参考になった
- 子どもの関わり方を学べるところ。子ども同士遊べる場所があること。
- 同年代のお友達と出会えて参考になる。
- いろいろな情報交換が出来る
- 引っ越ししてきたばかりで地域のことを知らなかつたので、いろいろな情報がもらえる。
- 地域の保育園、幼稚園事情がわかつた

#### リフレッシュ、気持ちの余裕ができる 32 件(一部抜粋)

- スタッフやお母さん達と話すことができて自分の気晴らしになる
- 行きたい時間に行って、帰りたい時間に帰れるので、気軽に利用できるところ
- 親の気持ちに余裕ができる
- 自分一人じゃないと思えるようになった。
- グループ感が少ないので気楽に遊びに来れる。
- 知り合いが出来たこと。外に出る口実が出来て気晴らしになる。
- 家での生活だと注意することが多くなってしまうので、広場でのびのびと遊べるのが助かっています。保

#### 様々な体験ができる 17 件(一部抜粋)

- 同月齢だけでなく、異年齢の子どもと関わるのでありがたい
- おもちゃの取り合いなど家ではできない経験もさせていただけること
- 絵本を読んでもらったり、体操したり、2人ではしないことをしてもらえる
- 子ども同士の関わりや親以外の大人との関わりが出来ること
- 兄弟がいないので広場で同じ年齢の事関わることが出来る
- 春から保育園に通う予定なので、たくさん的人がいる環境に慣れることができる
- 子どもにとって良い刺激になっている

### いろいろなおもちゃがある 13 件(一部抜粋)

- 家にあるおもちゃ以外で興味のあるおもちゃを知れた
- おもちゃもたくさんあるので子どもも楽しそう
- おもちゃがたくさんあるので子どもが好きなおもちゃをつどいの広場で見て家で買う時の参考にする。

### いろいろな 交流ができるところ 31 件(一部抜粋)

- 気が合う友達ができた 子どもが年齢違う子と触れあうことができる。
- ママ友ができた
- いろんな年代の子ども、お母さん達と知り合える。
- 話し相手ができて楽しい
- 友人ができた。人と話すことで楽になった。
- 平日、大人と話すこともあまりなく、年代的にも友達は幼児を育てている人も大変少ないので同じ年代の子を育てるお母さんと話したりできるので良いです。
- 子どもがいろんな方と知り合え交流できるところ。
- 子育てについて、色んなお話をできる
- 親同士の交流がうれしい
- 家から出るきっかけになっており、一日中家にいがちだったので助かっています。

### 子どもの安心な遊び場 38 件(一部抜粋)

- 子どもと 2 人で家にいる時間が減る
- たくさんの友達と遊ぶことができる
- 子どもに年齢の近い友達がてきて楽しんでくれていること。
- 子ども達同士で遊ぶ良い機会ができる安心できる
- 子ども同士の交流があって、家とは違う一面が見られてうれしい。
- 子どもを連れて気軽に遊ばせられる
- はいはいができるようになってから家よりは動きやすい遊び場として利用できてよかったです

### 子どもの生活に関するこ 8 件

- 広場に来ると子どもの機嫌がいい
- 家遊びではみられない子どもの姿がみられる
- おもっきり遊ぶので昼寝してくれて助かる。
- 子どもの刺激になっている。生活リズムが整った。
- 午前中に遊ばせることでお昼寝しやすくなった。

## 天気に関わらず利用できる 26 件(一部抜粋)

- 雨の日に、家にひきこもりがちにならずに、いられる
- 天気の悪い時にちかくの広場を利用してお出かけできること
- 雨の日に家で過ごすのが(私が)苦手なので助かります。気候に関わらず屋内で遊べる所があるのは安心です
- 雨の日や寒い日など、家に 1 日ずっといるのがしんどい時に気軽に遊びに来れる
- 夏の暑い時期、冬の寒い時期、雨の後の公園遊具の濡れている時など、遊びの選択肢として助かります。

## 7. 来年度の利用

今回は、来年度も利用する予定かどうかを尋ねる設問を設けてみた。その結果が図である。約 73% の人が継続利用を予定、約 25% が今年度(2018 年度)で利用を終了予定と回答した。

理由を記述してもらったところ、大半が「保育園、幼稚園に入る予定」であった。あとは、「職場復帰」「引っ越し」「子どもの年齢が利用できない年齢」であった。

来年度も広場を利用する予定ですか

来年も利用予定	72.7%	229 人
今年度で終了予定	23.2%	73 人
無回答	4.1%	13 人

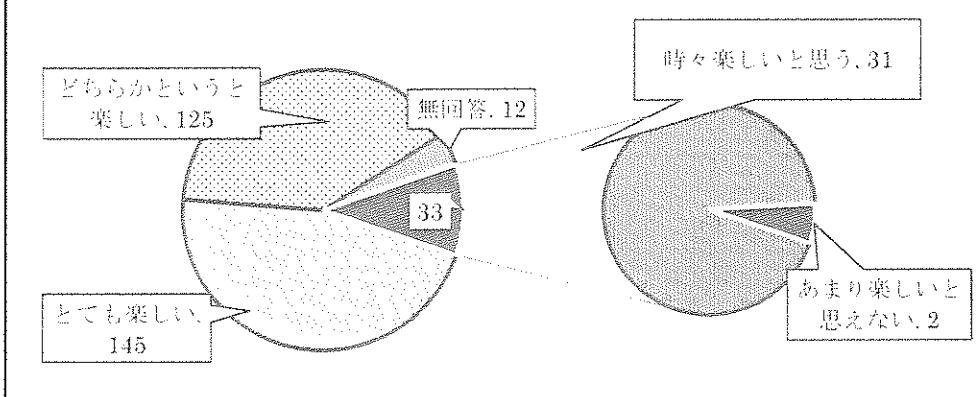
## 8. 広場と子育てストレスの関係

今回、新たに「あなたにとって子育ては?」という設問を設けた。その結果は以下のようである。

「とても楽しい」(46.0%)「どちらかといふと楽しい」(39.7%)が大半である。

が「時々楽しいと思う」(9.8%)「あまり楽しいと思えない」(0.6%)という回答が 33 人、無回答が 12 人あった。

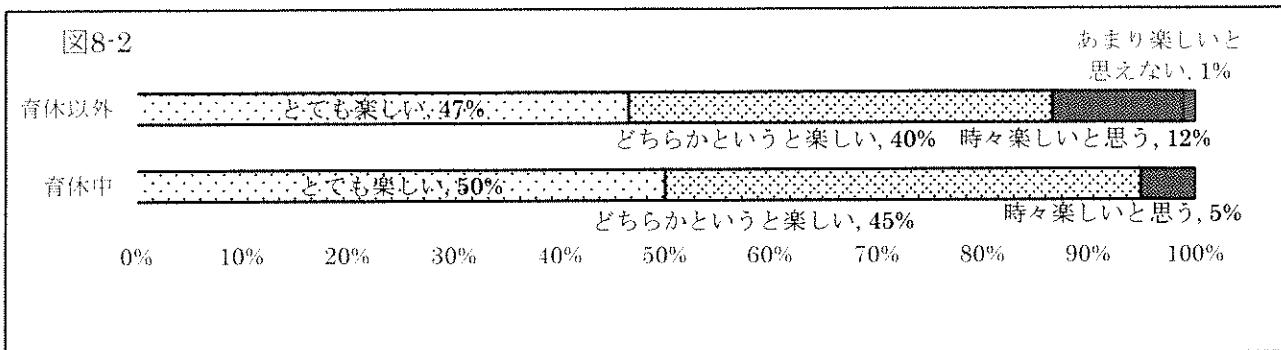
図8-1 あなたにとって子育ては (単位は人)



今回、問24で育休中であるかどうかを問いかけている。

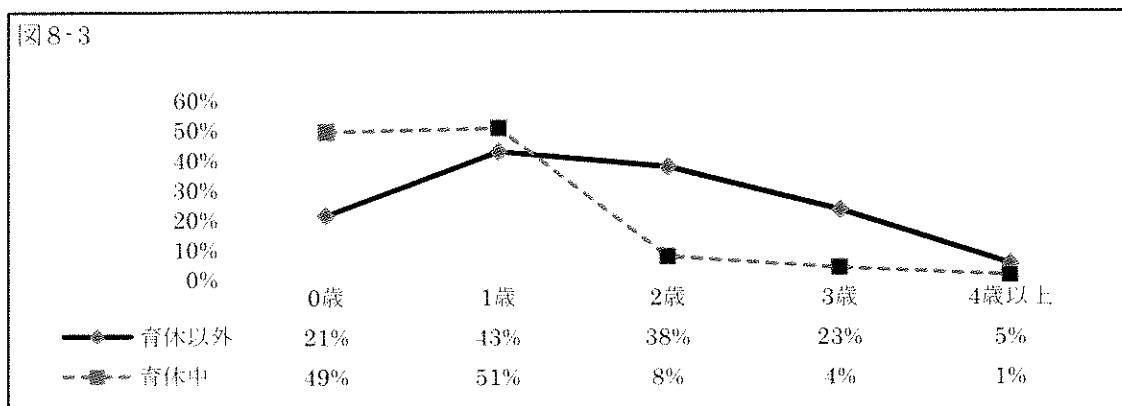
「育休中」あるいは「育休中以外」であることと、子育ての楽しさに相関性があるかどうかをみてみた。

双方の「時々楽しい」と「あまり楽しくない」の合計を比較した場合の T 値は、2.1 となり、有意差が見られた。



そこで、育休中と育休以外の子どもの年齢分布を比べてみると図8-3のようになった。

0、1歳代の子どもがほとんどである育休中にに対して、それ以外の群は、1、2、3歳が中心であった。子どもの年齢層の違いが、子育ての楽しさに差を生み出しているかもしれない。



保護者の子育てにおけるストレスについての質問「子育てで、子どもにイライラすることがありますか」に対しての回答結果のグラフが、図8-4である。「いつもイライラする」から「たまにイライラする」までの合計は、77.7%である。その中で一番多かった回答は、今回も「たまにイライラする」であった。

他の項目についても、微妙にイライラする傾向に全体の数値が流れている傾向はあるが、大きな差異はない。オウチーノ総研(株式会社オウチーノ／本社:東京都港区／代表:井端純一)が、2015年に首都圏在住の20~45歳の保護者を対象に行った、「『子育て』に関するアンケート調査」によると、「『育児ストレス』を感じたことはありますか?」に対して「頻繁にある」もしくは「時々ある」と回答した女性は84.0%であった。

キッズライン(株式会社キッズライン／本社:東京都港区／代表:経沢 香保子)の2017年に子育て中の男女497名(女性:479名 男性:18名)に行ったインターネット調査では、育児についてストレスを感じる人が91.7%という結果が出ている。

それらの結果と比べてみると、ストレス度は高くないように見える。広場に通うことが、日々のイライラの緩和になっている可能性が感じられる。

加えて「広場を利用して、イライラが減少すると思いますか?」という問い合わせの結果が、図8-5である。毎回変わらず「そう思う」が一番多く、ついで「とてもそう思う」となっている。若干ではあるが、2016年よりイライラが軽減されていると感じている傾向に流れている。

広場があって良かったと思うことの中に「家に居るのがしんどい」「子どもと家でこもりきりだと息がつまる」ので、広場に行くことが「気分転換」「リフレッシュ」になるという回答が複数あったことが、この結果につながっているのだと思う。広場がストレスを緩和し、リフレッシュの効果がある事は、虐待を未然に防ぐことになっているのではないだろうか。

図8-4 「子育てで、子どもはイライラすることがありますか？」

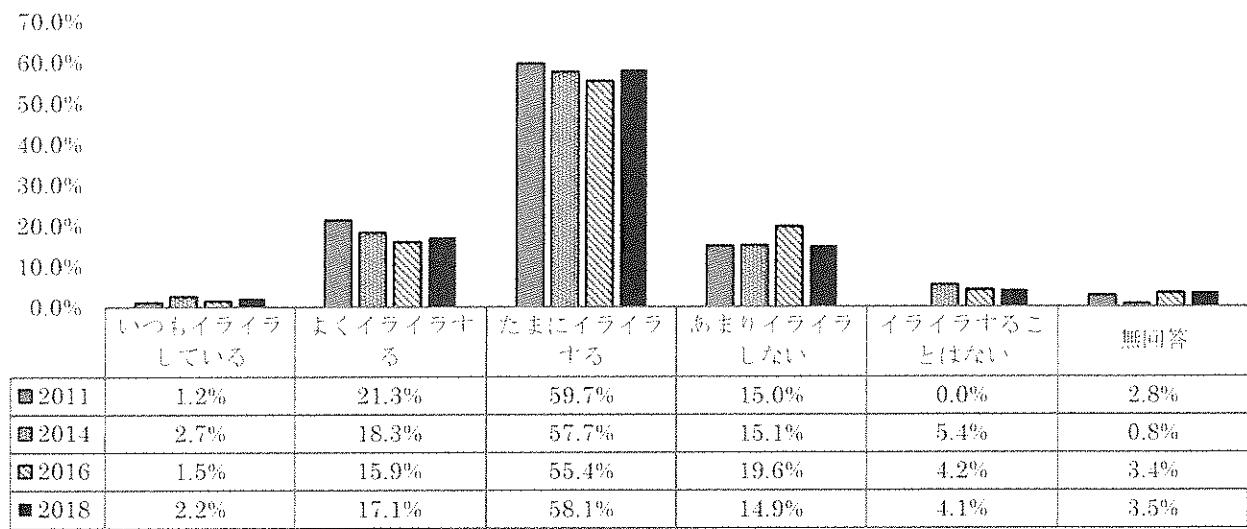


図8-5 「お湯に乗ることで、イライラが減少すると思いますか？」

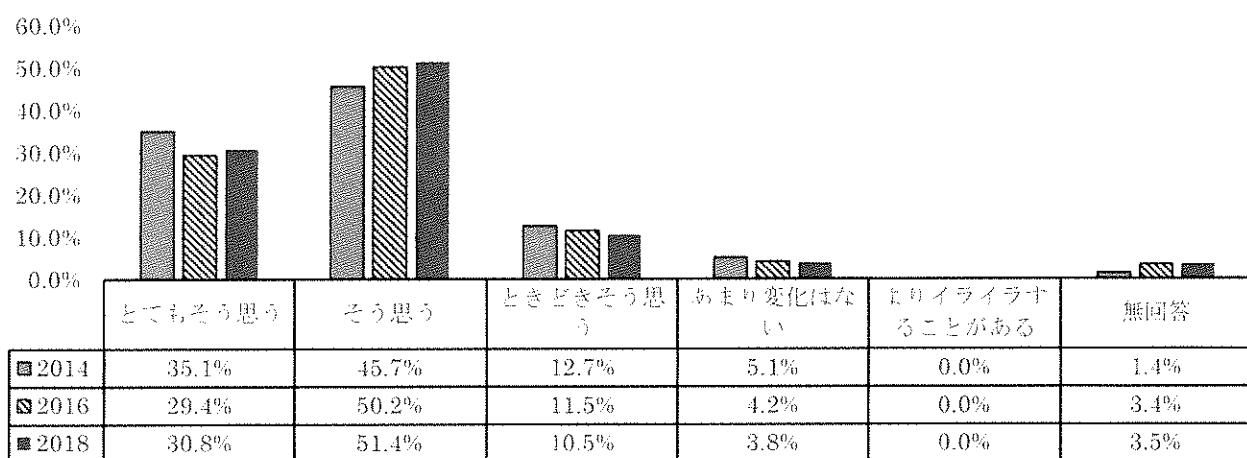
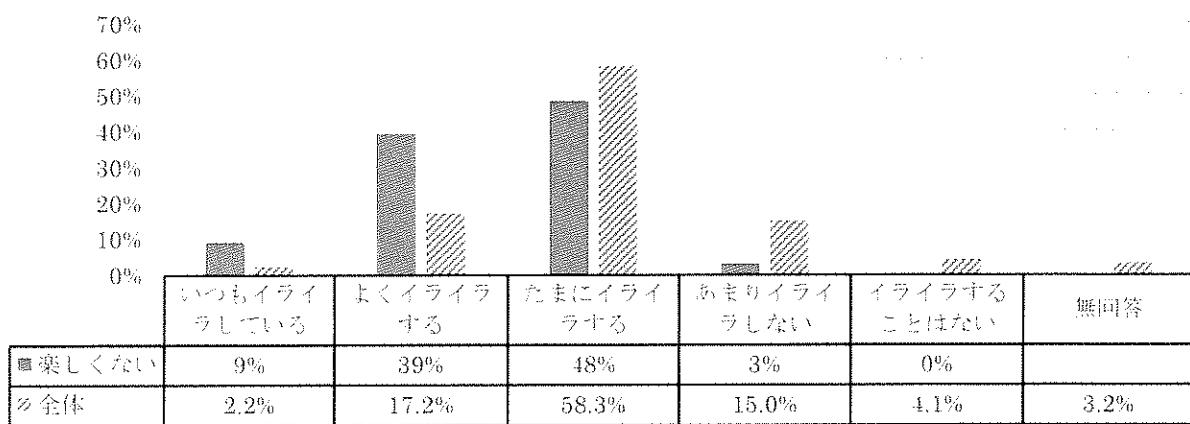


図8-6



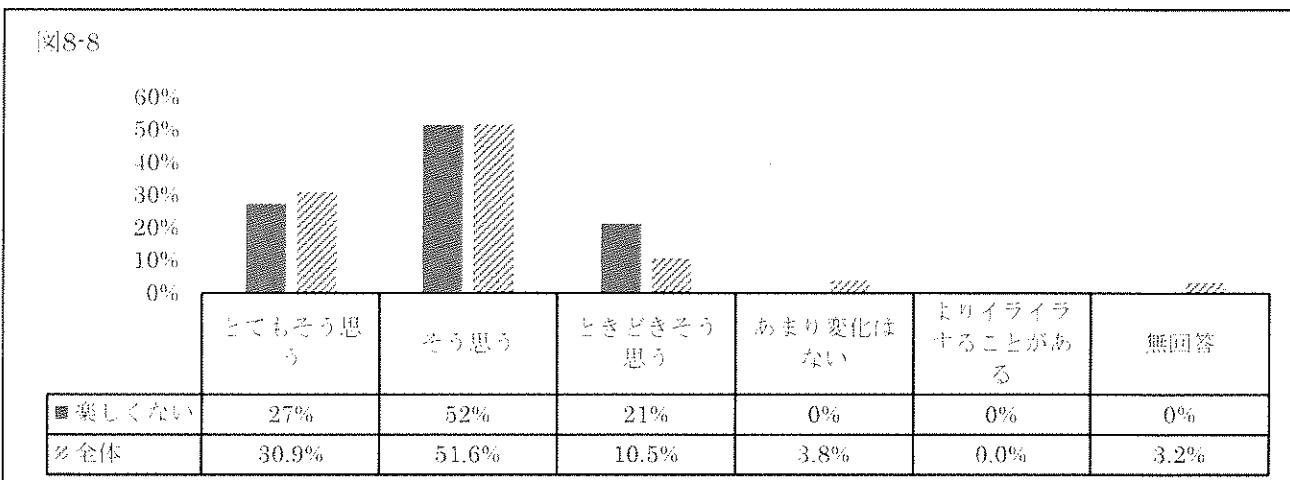
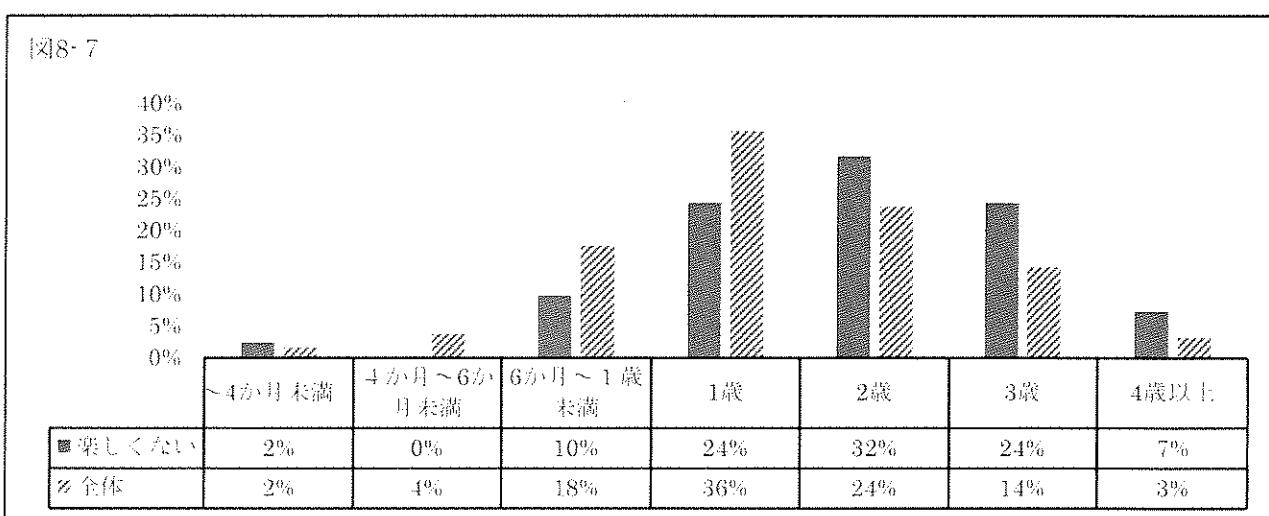
また、先ほどの「あまり楽しいと思えない」「時々楽しいと思う」という回答群(以下「楽しくない群」とする)を抽出してイライラ度合を比較してみると、「楽しくない群」のイライラ度合が高いのが見て取れる。(図8-6 参照)

加えて、「楽しくない群」と全体の子どもの年齢分布を比較したものが図8-7である。「楽しくない群」の子どもの年齢分布が、全体と比べて2歳が一番多い。2歳から3歳あたりは、ちょうど自我を主張し始める「イヤイヤ期」といわれる年齢であり、親もストレスがたまりやすい頃である。

そのような「楽しくない群」の方々においても、広場に来ることで、多かれ少なかれイライラ度合の減少を感じていることが見て取れる(図8-8)。子育てがそれほど楽しいものでないにしても、広場を活用することで日々を乗り切っているのだとすれば、広場は、在宅の子育てのストレスを軽減する場として機能しているということであろう。

また今回は、広場に来ることでイライラが減少する理由も自由記述で書いてもらった。広場に来ることで、日常の家事から離れられ、子どもと過ごすことだけに専念できること。子育て中の人と話せること。子どもを安全に見てもらえること、リフレッシュできること等で、イライラが減少していることが伝わってくる。

これらの結果は、広場が、在宅での子育てにおいて、虐待につながりかねないストレスを軽減する効果がある事を示しているといえよう。



#### イライラ減少の理由(一部抜粋)

- 家の中で育児をしていると、家事の進み具合やおもちゃの散らかりが気になってイライラするが、広場に居るとそれが見えないのでイライラしないです。
- 孤独感がなくなるから
- 遊びと子どもだけに集中できるから。
- 同じ状況の人と話すことでストレスが減少する
- アドバイザーの人たちに子どもを見てもらって、親も子どももリフレッシュできる
- 子どもとゆっくりすごせるから。

## 9. 子育ての不安や悩み

子育てで 不安や悩みがありますか？

はい	44.1%	139 人
いいえ	34.6%	109 人
無回答	21.0%	67 人

「いいえ」及び無回答の合計が、半数をこえているが、書いている時に特に思いつかなかったり、その時点では特に大きな問題が起きていないかったりということかもしれない。実際に自由記述の中に「たぶんあるが、すぐには出てこない」や「その時々に何かしらある時もない時も…深刻なのは今はないです」というのがあった。

そして、その悩みの内容は以下の通り、多岐にわたっている。2016 年でも感じたが、同じような悩みでも、ひとつひとつに、利用者のしんどさ、困り感が窺える。

### 子育ての不安や悩み

#### 保育園・幼稚園・小学校

- 保育園の入園が難しそうなところ、今後のライフプランを考えるうえで悩む。

#### 健康について(一部抜粋) 3 件

- 病気など もしもの時 等

#### 食事のなやみ

##### ・おっぱい・ミルク・離乳食(一部抜粋) 6 件

- 離乳食の進みが悪く、準備が苦痛。
- 断乳するかどうか。 等

##### ・食事全般(一部抜粋) 5 件

- 栄養が充分かどうか
- 食事（乳、卵アレルギー） 病院には通っている 等

##### ・好き嫌い(一部抜粋) 5 件

- 偏食でおにぎりとうどんなど同じものしか食べない(肉類、野菜はあまり食べない)
- 食べ物の好き嫌いが多い 等

#### 子育てのいろいろ

##### ・子育て全般(一部抜粋) 15 件

- その月齢にこの育児でやっているのかという不安がある。
- 日々の子どもの様子（ごはん時にスムーズにいかない、泣き叫ぶ、お昼寝したくない…）なので、大きいことではありませんが、毎日のことなのでストレスです。
- 他の子とトラブルが起きないか心配(自分の子どもが他の子にケガをさせないか等)
- これでいいのかなと自信がなくなる。体力がもたない。 等

##### ・イヤイヤ期の対応(一部抜粋) 7 件

- 自己主張がでてきた子どもとの接し方

- 上の子の赤ちゃん返りやイヤイヤ期の対処法

- イヤイヤ期の対応など 等

・人見知り・場所慣れ

- 人見知りがひどい、1.5m離れると大泣きで家事が出来ない。

- 集団生活への不安

・睡眠(一部抜粋) 6件

- あまり長い時間寝てくれない。

- 夜泣き 等

・トイレトレーニング(一部抜粋) 4件

- トイレの進み具合など

・兄弟姉妹の対応(一部抜粋) 6件

- 下の子が生まれた後、上の子を後回しにする事が増えているので、さびしい思いをさせていないか・等

- 兄弟姉妹の関わり方 等

・イライラ(一部抜粋) 12件

- 子どもを必要以上に叱ったり、怒ってしまうことがある

- 自分に余裕がないのに周りに助けを求められない自分にもイライラすることがある

- イライラがおさまらない。

- 上の子を叱りすぎてしまう 等

成長・発達(一部抜粋) 16件

- 成長がゆっくりなところ

- 発達など、子どもの成長（普通って何。個性ってどこまで、など・・・。正解もないのでは親の決定である程度決まることの悩み）

- 発達について、このまま順調にいくのか

- ちゃんと育つかどうか

- 言葉が遅い 等

不安いろいろ

・体力 2件

- 体力的にしんどい

・人間関係

- 祖父母との付き合い方

- 遠方へ引っ越しする予定なので、また友達ができるか不安です

・その他の不安なこと(一部抜粋) 8件

- 仕事と両立できるかな？

- 金銭的な不安

- 平日は遊び場がいろいろあるが、日曜日はない。家にずっといると辛くなる。
- たぶんあるが、すぐには出てこない
- 全てにおいて常にこれでよいのかと思ってしまう
- ありますが、相談できる環境があるので助かっています 等

では、その不安や悩みは誰かに話したり、相談したりしているのだろうか？

子育ての不安や悩みは、誰かに相談していますか？

はい	265 人	84.1%
無回答で相談相手あり	22 人	7%
いいえ	3 人	1%
無回答	24 人	7.6%

「はい」と答えた人と、無回答であったが、相談相手の回答があった人を合わせると 91.1% の人が誰かに話したり、相談したりしている。

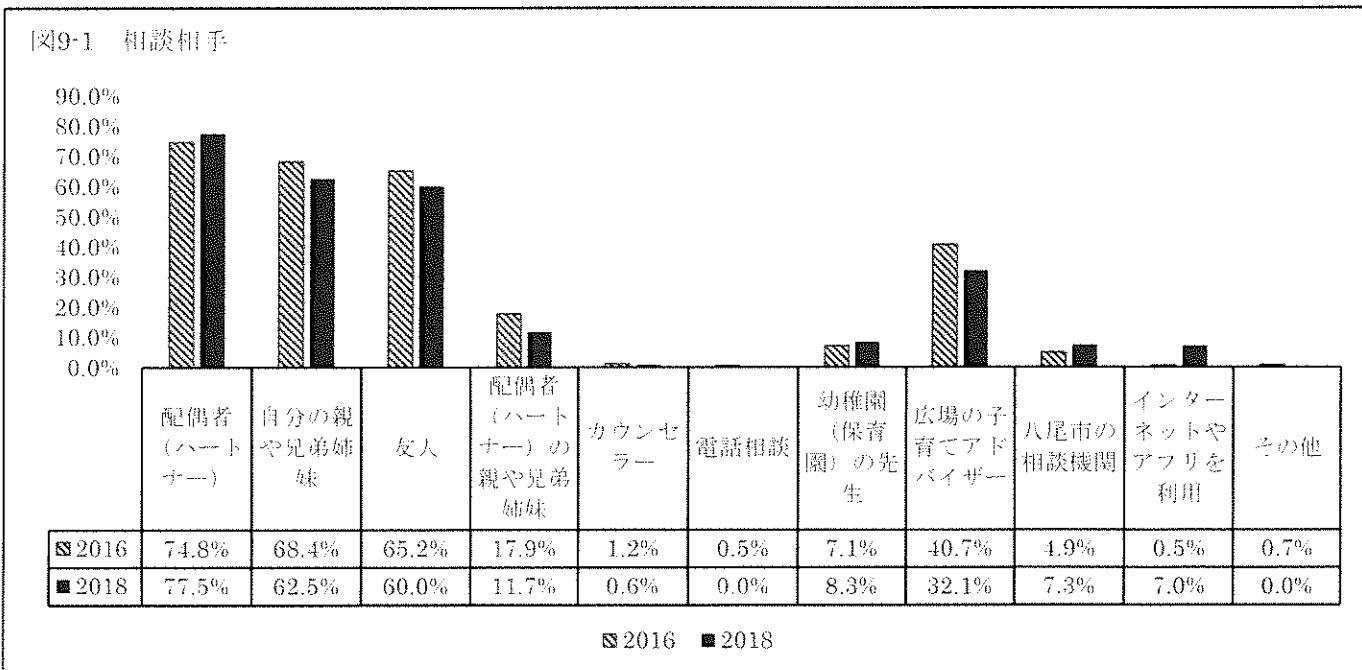
そして、図 9-1 を見ると、今回のアンケートでは、約 78%(244 人)の人が「配偶者(パートナー)」と回答している。一番身近で子どもの保護者でもある配偶者(パートナー)に話すことで、解決することが多くあると思われる。2016 年でも述べたが、このことは、父親が間接的に育児参加しているといえよう。

次いで、「自分の親や兄弟姉妹」があり、3番目に「友人」となっている。

そして、「広場のアドバイザー」がその次に多い。ただ、2016 年に比べ、どれも割合が減少している。

「広場のアドバイザー」に関しては、問 11 で、アドバイザーを「相談相手」と 57%(180 人)の方が答えているのに対して、この問では、2016 年 40.7%(166 人)よりも 8% 以上減少の 32.1%(101 人)となった。

また、「八尾市の相談機関」「インターネットやアプリを利用」が増加している。特に「インターネットやアプリを利用」は、2016 年 1% 未満(2 人)であったのに対して、7%(22 人)に増加している点に注目しておきたい。

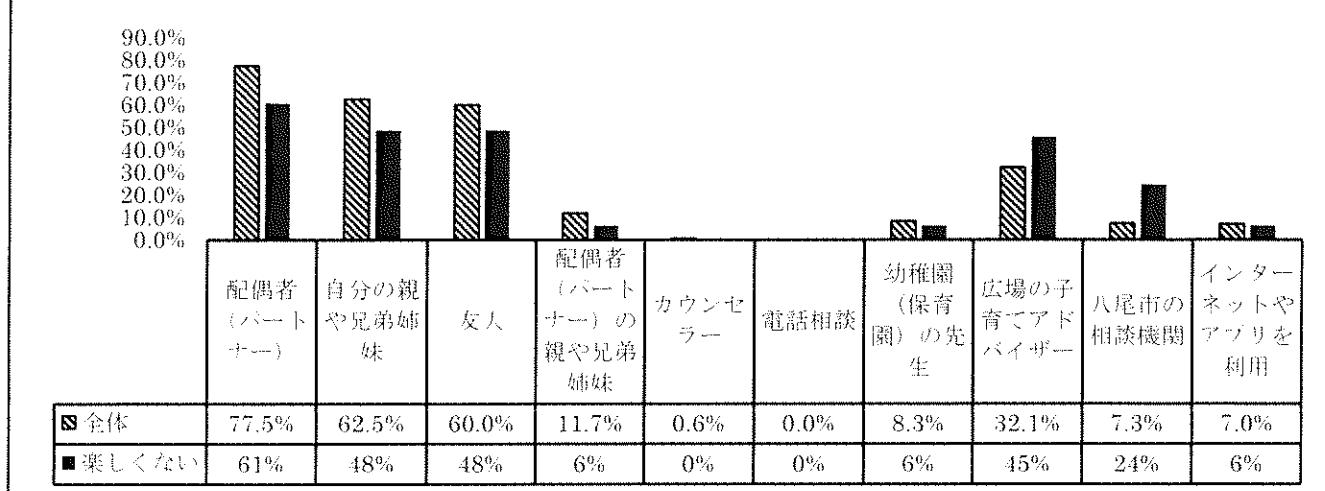


また、図 9-2 は、「楽しくない群」を抽出したものと全体とを比較したものである。

「配偶者(パートナー)」「自分の親や兄弟姉妹」があり、3番目に「友人」であるのは、全体と変わらない。が、割合は、どれも下回っている。その次に「広場の子育てアドバイザー」が多く、全体の割合よりも上回っている。「八尾市の相談機関」に対しては、3倍近い開きがある。

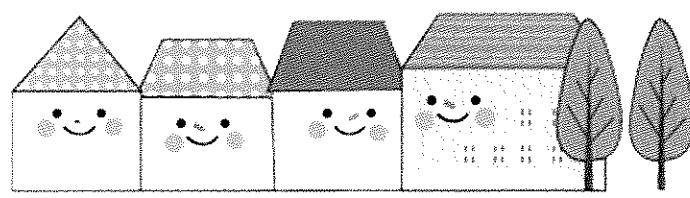
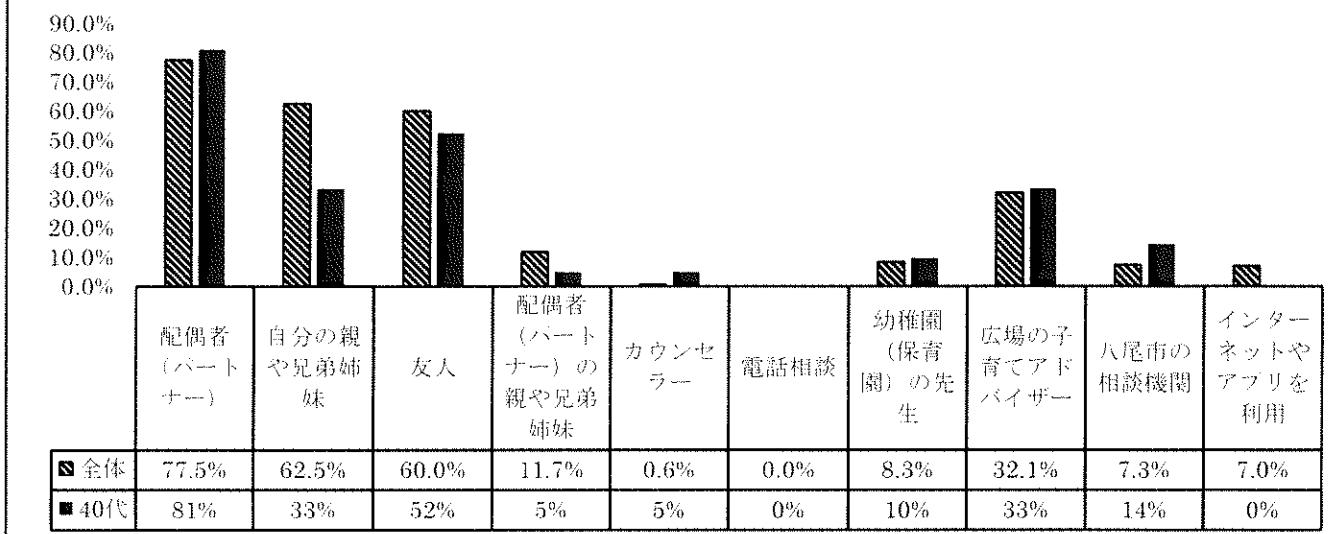
「楽しくない群」の保護者にとって、広場の子育てアドバイザーは、今のしんどさを聞いてもらえ、わかってもらえて、相談できる存在であるのかもしれない。

図9-2 相談相手の比較(子育て楽しくない群)



一方、40代の母群と全体とを比較してみると(図9-3参照)で見ると、今度は「配偶者(パートナー)」が80%を超えてい。逆に、「自分の親や兄弟姉妹」に相談するという回答が全体より半分近く少ない結果となった。また「インターネットやアプリの利用」ではなく、「八尾市の相談機関」は、全体と比べると2倍近くの開きであった。身近な人に相談することと、それ以外の相談先を使い分けている結果かもしれない。

図9-3 相談相手の比較 (40代保護者)

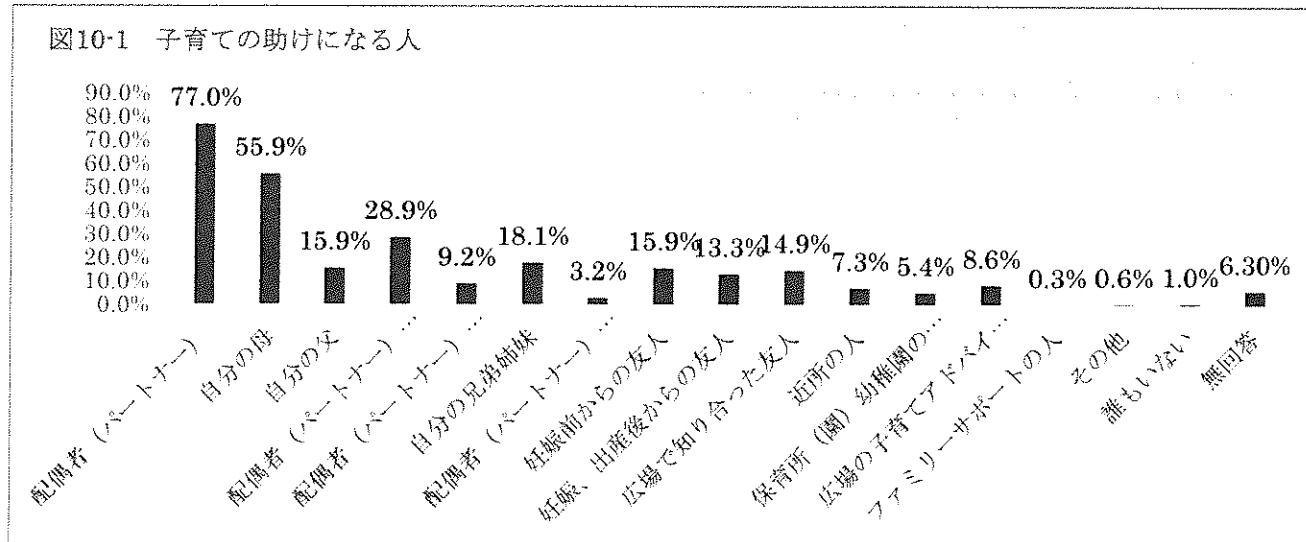


## 10. 子育ての助けになる人

今回、新たに「実際に子育ての助けになる人はいますか」という設問を入れた。

その結果が図 10-1 である。

図10-1 子育ての助けになる人



配偶者が 77.0%(243 人)と一番多い。次に自分の母 55.9%(176 人)となっており、頼みやすさ、助けてもらいやすさが反映された結果といえよう。

子育ては、周りのサポートがないと難しいことが多い。今回の結果では、誰であれ、子育てを助けてくれる人がいる方が大半であったことに安心をおぼえる。

だが、1.0%(3 人)の「誰もいない」あるいは「無回答」6.3%(20 人)という回答があることに心を留めておきたい。

### 他の記述

- ・広場のみんなに助けてもらっています
- ・サークルで知り合ったママ友

## 11. 夫婦の子育てに関わる割合

子育てのイライラ度合、子育ての不安や悩みを話せる相手の有無、実際に助けになる人の有無等について問い合わせ、回答を得た。

ここまで結果をみても、悩みを話せる相手、助けになる人として、配偶者(パートナー)の役割は大きい。

それでは、配偶者(パートナー)がいる場合、夫婦の子育てにかかわる割合はどれくらいだと感じているのだろう。

そして、理想としては、子育てにかかわる割合は、どれくらいが望ましいと思っているのだろう。

ということで、「配偶者(パートナー)がいる場合、夫婦の子育てにかかわる割合はどれくらいだと感じていますか」「理想としては、子育てにかかわる割合は、どれくらいが望ましいと思っていますか」という問い合わせをした。

その回答結果が図 11-1 である。

子育ての全てを一人で引き受けていると感じている 10:0 から、3:7 の方まで幅広い分布である。

その中でも、子育ての 8 割以上を担っていると感じている回答者が、55%\*(163 人)いることに注目したい。

理想としては、あと 1~2 割くらい多く、夫(パートナー)に子育てに関わってもらいたい と思っていることが、見て取れる。

\*無回答 17 人を除いた 297 人の割合

図11-1 子育てにかかる割合

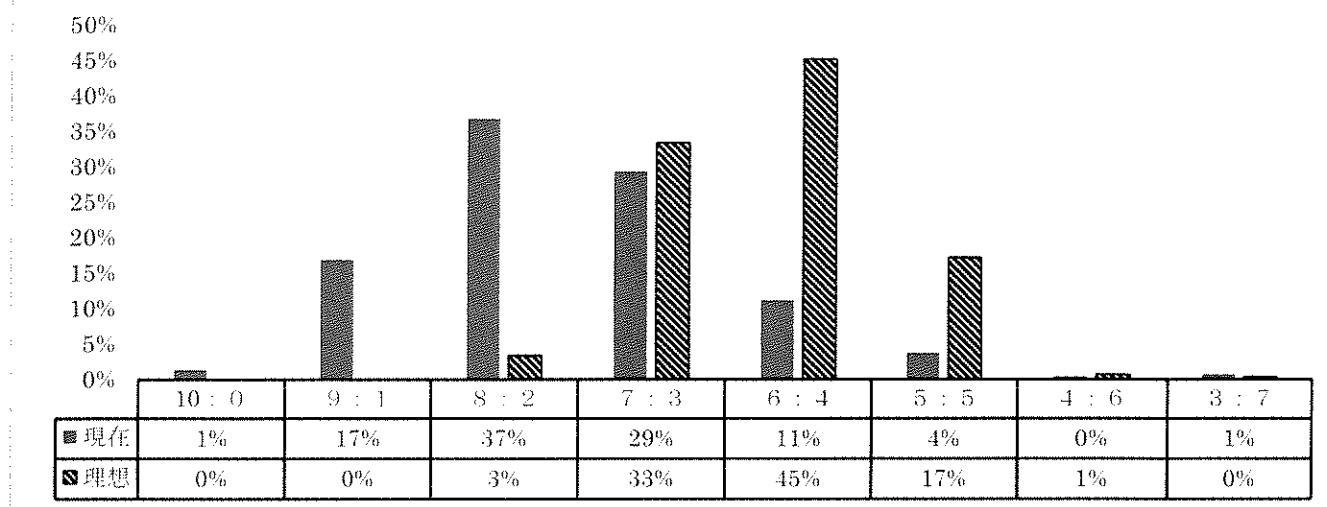
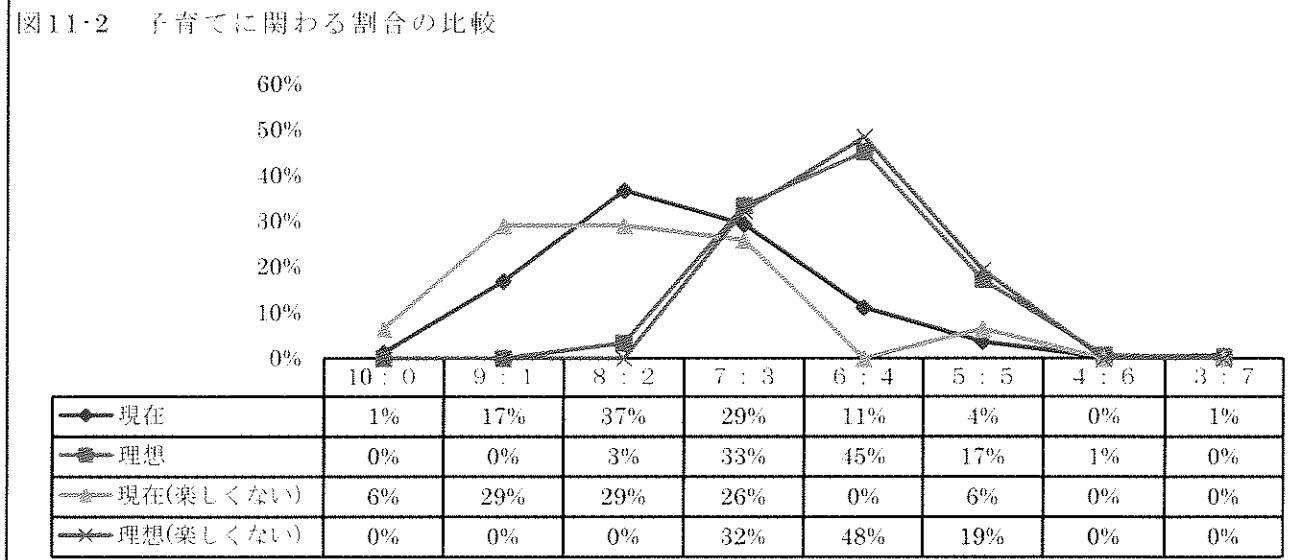


図11-2は、「楽しくない群」と全体の比較である。

「楽しくない群」の理想の育児割合は、全体の結果とほぼ同じである。

だが、現在子育ての10割から9割を負担していると感じている人の割合を全体の結果と比べると、全体では18%であるのに対し、楽しくない群は35%とほぼ2倍。全体と比べて負担感が高い。

図11-2 子育てに関する割合の比較



## 12. 育児休業について

広場の利用者の方の中に育児休業中の方が、増えてきているように思えること、また、夫が育児休業を取るか取らないかという話題も広場で聞くことがある。そこで、今回のアンケートでは、育児休業についても尋ねた。

表12-1 育児休業取得の状況

自分(母)			配偶者(パートナー)		
利用したことがある (現在利用中4人を含む)	7.9%	25人	利用した事がある	6.0%	19人
現在利用中	25.1%	79人	現在利用中	0.0%	0人
いいえ	61.3%	193人	いいえ	87.6%	275人
無回答	7.0%	22人	無回答	6.3%	20人

2011年のアンケートの回答者の中では、育児休業中の人には、10%であった。今回の調査では、育児休業を取得したことがある人、現在利用中の人を合わせて、約33%。約3倍の増加である。この数字は、第1子出産前後に女性が就業を継続する割合が、28.3%\*であることから見れば、平均的といえよう。そして、取ったことのある人の育児休業期間は、1年が最も多く62%、1年半が24%、最長は3年であった。

取得しなかったと回答した人は、61.5%である。

自由記述で取得しなかった理由も書いてもらつた。取得しなかった理由は、表12-2をみていただきたい。同じ離職であっても、それぞれ違った理由がある。無職であっても、「専業主婦」と表現する人もいれば、「仕事をしていない」「働いていない」と様々である。それぞれの思いが感じ取れる。

中には、就業していても、「取れる雰囲気じゃなかった」というものもある。

そして、取得しなかった理由の46%が「妊娠・出産を機に退職」である。この結果は、記述が「いいえ」と答えた数の約半数なので、偶然かもしれないが、第1子出産退職率の46.9%\*と近似である。

\*「第1子出産前後の女性の継続就業率」及び「出産・育児と女性の就業状況について」平成30年11月 内閣府男女共同参画局 資料より

#### 育児休業を取らなかつた理由

##### 妊娠・出産を機に退職（一部抜粋）

- 妊娠中に退職（5件）
- 出産前に退職した（8件）
- 退職した（23件）
- 育休を取りにくそうだったこと、復帰時期などをかんがみて出産前に退職。

##### 転勤

- 夫の転勤があつて辞めた（3件）

##### その他の理由で取得できなかつた（一部抜粋）

- 取れる雰囲気じゃなかつた
- 正社員でなかつたため（2件）
- 自由業

##### 仕事をしていない

- 専業主婦（12件）
- 無職（6件）
- 働いていないため（9件）
- 仕事をしていなかつたから（6件）

次に、男性についてもみてみる。

今回の結果で見ると取得率は、6.0%。厚生労働省「平成30年度雇用均等基本調査（速報版）」の男性の育児休業取得者の割合は6.16%とほぼ同比である。

育児休業を取得した男性のうち、いわゆる専業主婦世帯の夫（パートナー）の育児休業取得は、9人（3%）であった。厚生労働省「平成27年度雇用均等基本調査」の専業主婦世帯の夫の育休取得率は2.22%である。

また、同じ厚生労働省の調査によると、出産した妻のいる男性の育休取得状況は5日未満が56.9%、5日～2週間未満が17.8%、1～3ヶ月未満が12.1%となっている。本調査での結果は、表12-3のとおりである。若干、本調査の方が、取得期間が長いが、これは厚生労働省の調査が少し前の結果であることも影響しているかもしれない。

表12-3 育児休業取得日数（男性）

5日	6日	1週	1か月	3か月未満	3か月
15%	8%	38%	15%	15%	8%

配偶者（パートナー）が育児休業を取らなかつた理由もきいてみた。回答数92件

職場の多忙さ、過酷さがみえてくるような理由が並ぶ。

それと、制度の誤解。育児休業は育児・介護休業法という法律で定められた「子が1歳になるまで男女の労働者が休める国の制度」なのだが、なんとなく企業の制度のような印象を持っている人が多い。そして、男女の労働者が取れる制度なので、妻が有職かどうかは問われないことも、あまり知られていないように思える。

#### 「いいえ」の理由

##### 仕事上の理由（一部抜粋）

- 自営だから(6)
- 休めない仕事な為(6)
- 忙しくて休めない(7)

##### 取れる雰囲気がない・制度がない（一部抜粋）

- とれる状況にいない(17)
- 男性が育児休業をとる前提がない会社だから(12)
- とるつもりがなかった

##### 妻が取得したから（一部抜粋）

- 自分（母親）が取得したから《同じ職場の為》
- 私（母親）がとったから(8)

##### 必要がなかった（一部抜粋）

- 必要がないから(8)
- 近くに、義母や両親がいるから
- 里帰りしたし、必要がなかったから(2)
- 専業主婦(3)
- 私が働いてないので
- とらなくても大丈夫だった
- 最初のころ有給で休み、他は特に必要なかった
- 職場が近いため休まなくてもどうにかなつた

##### 経済的理由（一部抜粋）

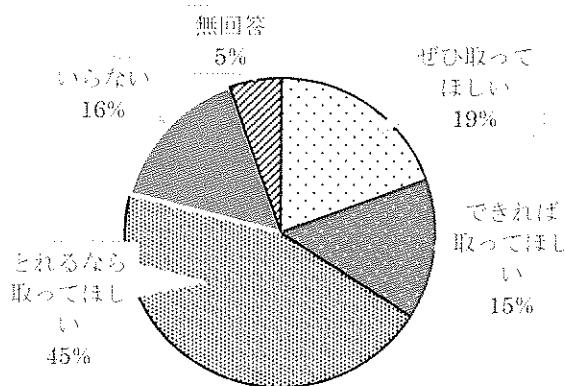
- 仕事をしてもらった方が安定した収入があるため(5)

- 私が退職していた為、(パートナーが)仕事をしないといけなかった為
- 考えなかった

- 育児休暇を取ってまで子育てに協力してほしいと思わなかった。私もフルで働いていたなら考えたかもしれないが、職場関係によっては取得するのが難しいことがありそう。
- 育児休暇を取るという発想がなかった。(4)
- 自分が退職したので考えもしなかった

もう一問、「男性が育児休業を取ることについてどう思うか」も尋ねた。  
取れる環境になれば、およそ8割(248人)の人が育児休業を取ってほしいと思っている。

図12-1



その一方で、育児休業はいらないと思う人もいる。その理由は以下の通り。

#### 「いらない」理由 一部抜粋

- 育児休暇をとるなら早く帰ってくれる方がいい(3)
- 仕事に専念してほしい。(2)
- 仕事場に居づらくなりそう
- 自分が取るから
- あまり役に立たない、他のサポートの方が良い。(2)
- 里帰りするため
- 個人的には、いない方が楽なので(4)
- 「とれるなら取ってほしい」が、どちらか片方が取れればよい
- 自営業なので(2)
- お給料が減るから(3)

今回のアンケートで、配偶者(パートナー)を子育ての不安や悩みの相談相手であり、子育ての助けになる人として位置付けている割合が高いことがわかった。(図 10-1 参照)

それでも、実際の育児負担は、女性が担っていることが多い。家事も育児も一人でこなすワンオペ育児の状況である。(図 11-1 参照)子育てが楽しくないと感じている人たちに、特にその負担感が強かった。

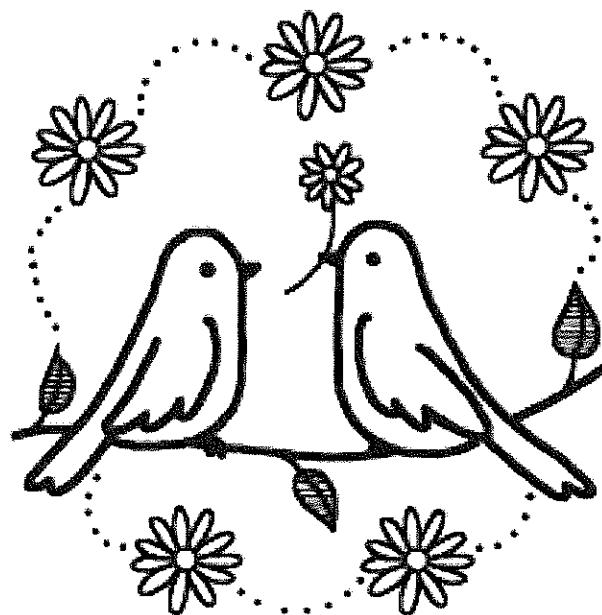
また、子どもの年齢が 1 歳を超え、2 歳、3 歳の自我が芽生えてくる時期に、在宅でワンオペ育児をするしんどさも見えてきたように思う。

ワンオペ育児ではなく、夫に子育てにもう少し関わって欲しいと望んでいる事が、理想の育児負担の結果をみても、見てとれる。理想の育児負担に近づくには、一過性の育児休業よりも、日々の子育てにかかる時間を少し増やしてもらうほうが、必要なことかもしれない。

それでも、育児休業を取れるなら取って欲しい、という回答が多かったことの裏には、育児休業に対して夫が積極的に子育てに関わる第一歩になるのでは、という期待があるのではないだろうか。

育児休業の取得の有無にかかわらず、夫が早い時期から育児や家事に関わって当事者意識を持つことで、ワンオペ育児から遠ざかる可能性が少し見える。そして、10 人に一人はかかるともいわれる「産後うつ」の予防にもつながる。また、子どもと夫が過ごす時間をもつことは、愛着形成にも影響があるかもしれない。それに加えて、「男性は外で仕事をし、女性は育児や家事、それに仕事もする」というジェンダーロールの刷り込みを減少できると思う。

さて、広場で取り組めることは何であろう。



### III 事業推進への課題と取り組み

現在の広場運営の中で感じる広場全体の傾向としては、出産の高齢化、利用の子どもの低年齢化、利用し始めの低年齢化が挙げられる。子どもが低年齢化したことで、徒歩とベビーカーの利用が増え、より広場が参加者しやすい身近な居場所である必要が高まっている。現在、八尾市内15中学校区につつつの広場はあるが、広場の配置によって空白地帯もあることが、今後の課題と言える。そして、全体的に低年齢化により登録数が減少しているので、より一層の必要とする方と繋がるための広報を改めて考える必要がある。

また、低年齢化によって、広場に3・4歳児の姿が以前に比べてあまりないので、2歳児のイヤイヤ期を乗り越えた後のモデルに触れることが少なくなっている。子育ての半年後、1年後のモデルに触れることで安心できるのだが、現状では、乳児やおとなしい子に気を使ったり、それが原因で来れなくなる方もいる。保護者のイヤイヤ期への理解や、親が気を使わず広場で過ごせる安心感を持てる運営が求められる。子どもにとっても、親にとっても、縦の交流によって得られる情報が重要である。

そして、今回の調査では、育児休暇や実際の父親の育児参加の現状や相談相手の存在が、子育ての安心感や負担感に大きく影響することが見て取れた。それを受けつつどいの広場では、家庭の子育てを支える仕組みとともに、親以外の地域のおとなが関わり、社会で子育てするという意識を高めて実践していく場としての役割を果たしたい。

#### 1・広場情報周知への取り組み

2017年度には、広場 MAP 掲示物、2018年度には、広場 MAP 配布用をネットワークで作成し、子育て支援課や保健センターの協力をいただき、保健センターでの掲示や、八尾市内での配布をすることができた。ツールを使った広報を今後も連携を深めながら引き続き行っていきたい。

これまで、広場を知ったきっかけが友人からの紹介といった「口コミ」が、大きな広報力をもっていた。しかしながら、広場の利用を開始する年齢が低年齢化しており、同年代の子どもを持つ保護者との出会いが広場であることも多くなっている。そこで広場をまず知ってもらう工夫が必要だと思われる。例えば広場のチラシを広場周辺のマンションや公園などで配布することや、近隣のスーパー・産婦人科などの配布や声掛けなどが考えられる。また、今回のアンケートで、徒歩やベビーカーで行けることが強みであることが分かったので、その点をアピールしていく広報を工夫していきたい。

また、魅力的な広場運営も重要であり、新しいニーズを掘り起こし、課題解決に繋がる事業に取り組んでいきたい。広場を活用した、縦のつながりづくりのための、育児者の年齢・子どもの年齢別でイベントをしたり、広場卒業生等との異年齢交流イベントなどの取り組みもあるので、さらに広げていきたい。また、幅広い層への新規利用促進のための、地元地域との行事連携や交流イベントなどが効果的と思われる。

## **2・アドバイザーの資質向上への取り組み**

アドバイザーが、利用者の話し相手、相談相手となっていることから、アドバイザーへの研修の必要性や内容の重要性を、認識しなければならない。低年齢化に伴う広場での2歳児の過ごしにくさへの適切な対応が求められ、乳児の愛着形成を含め、様々なケアについても知識を深める必要がある。今回のアンケートにおいてもたくさんの不安なこと、心配なことが記述されていた。その内容を精査し、アドバイザーとしてできること、提供できる情報、講座内容などに反映していく必要がある。

## **3・環境整備への取り組み**

アンケートを見ると、おもちゃについての関心が高く、その点を取り上げている記述が多くみられた。低年齢化に伴い、年齢構成に応じたおもちゃを選定していくことが必要である。なめるなどの行動が当たり前の年齢が多くなってくることから、衛生面、安全性へのより一層の配慮も重要なになっていくと思われる。

## **4・利用者理解への継続した取組み**

概ね、広場の意義や主旨をご理解いただいたうえで、利用していただいている満足感も得られていると思われる。それに加えて、各広場で、利用者の細かなニーズの把握に努め、改善や工夫のできるところは、対応していきたい。ただし、必要なないことも中にはあり、全部に対応はできない。優先順位をつけつつ、共通して果たすべき使命を踏まえ、各広場の特色を保持しながら、利用者のニーズに寄り添いたい。

広場を利用している方々の、現況や求めているものや、必要とするものがわかり、これから広場運営に活かしていくためにも、全体で有効なアンケートを継続して取ることには、意味があると感じる。

## **5・育児休暇についての正しい情報の提供・啓発**

今回、母親にとっても、父親にとっても、育児休暇を取ることのメリットが示された。育児休暇を取ることについての正しい情報や、意識に欠けているため、取得率が上がらない。職場の環境はすぐに変えることはできないが、小さな変化の積み重ねが大切であると考える。育児休暇取得への否定的な意見にも配慮しつつ、父親の育児参加に加え、育児休暇取得に向けて意識を変えていくための情報提供・啓発を進めていきたい。

## **6・学びの場の充実**

育児に不安を抱えた保護者が、広場の利用を通して、アドバイザーや他の保護者の子どもとの関わりから、多くを学んでいる様子が伺えた。見て感じる取るだけでなく、意識的な学びの時間を持つ機会を増やしたい。リフレッシュやリラックスできる機会と同様に、はっきりとした目的意識を持ち、子育てをより楽しみ、スキルアップすることで、子どもの最善の利益に寄与したい。このことは、子どもへの虐待予防にもなると確信する。

# 広場利用者アンケート 2018年度

今年度も 八尾市内のつどいの広場（全15カ所）を利用されている方対象に、アンケートを実施いたします。

このアンケートは、広場利用に対する満足度や目的、そして子育てに対しての悩みや負担などの実態を知り、広場の課題を把握することで、つどいの広場を利用している方のニーズにあった支援を提供していくことを目的としています。今のお気持ちや率直な思いをお書きください。

なお、アンケートの書き方などについて分からぬ場合は、広場の子育てアドバイザーにご質問ください。  
ご協力よろしくお願ひ致します。

やお広場ねっとわーく

\*このアンケートは、全広場共通です。他の広場で回答された場合は、再度回答の必要はありません。

1 このアンケートを記入されているのはどなたですか？

・母親                   ・父親                   ・その他 ( )

2 お住まいはどこですか？（町名まで） ( )

3 広場までの交通手段は？（複数回答可）

・徒歩	・ベビーカー	・自転車
・車	・その他 ( )	

4 あなたの年齢は？

10代       20代       30代       40代       50代       60代以上

5 今、広場を利用しているお子さんは（複数回答可）

第1子       第2子       第3子       第4子       第5子

6 今、広場を利用しているお子さんは何歳ですか？（複数回答可）

~4か月未満	4か月~6か月未満	6か月~1歳未満
1歳	2歳	3歳
4歳以上		

7 広場利用歴はどれくらいですか？

~1か月未満	1か月~6か月未満	6か月~1年未満	1年~2年未満
2年~3年未満	3年~4年未満	4年以上	

8 登録している広場を教えてください。（複数回答可）

・からりん広場	・たこちっちはうす	・シャボン玉
・龍華おやこのひろば	・あ～いあいひろば	・こっこさん
・夢実人	・めだかのがっこ	・あけぼの広場
・お空に	・てん・てん・てんとむし	・みんなの子育てひろば八尾南
・ぽっかぽか	・えこり	・はなおCHAN

9 広場をどれくらい利用されていますか？

複数の広場利用の場合は、全部合わせての利用回数をお答え下さい。

・週に4回以上	・週に3回くらい	・週に2回くらい
・週に1回くらい	・月に3回くらい	・月に2回くらい
・月に1回くらい	・ときどき	

10 広場で気に入っているところはどこですか？（複数回答可）

- ・親同士の交流ができる
- ・子育ての知識や情報が得られるところ
- ・ほっこりできる場所
- ・安心して 子どもと遊ぶことができるところ
- ・気軽に相談できるところ
- ・生活リズムを整える助けになるところ
- ・その他（ ）

11 あなたにとって広場の子育てアドバイザーはどんな存在ですか？（複数回答可）

- ・気軽な話し相手
- ・相談相手
- ・子育てのモデル
- ・子どもの良い遊び相手
- ・環境を整える人
- ・広場全体のコーディネーター
- ・事務や運営を行う人
- ・よく分からぬ
- ・その他（ ）

12 広場を利用して 子どもの変化はありましたか？（複数回答可）

- ・友達が出来た
- ・上手に遊べるようになった
- ・生活リズムができた
- ・積極的になった
- ・笑顔が増えた
- ・よく寝るようになった
- ・落ち着いてきた
- ・よく食べるようになった
- ・特に変わりはない
- ・その他（ ）

13 広場を利用して あなた自身の変化はありましたか？（複数回答可）

- ・本音で話せる子育て仲間が増えた
- ・子どもをゆっくり見られるようになった
- ・子育ての孤独感がなくなった
- ・子育てしている親と知り合えた
- ・子育ての不安や悩みを話せる相手ができた
- ・地域の子育て情報が増えた
- ・子育てに自信が少しついた
- ・子育てのノウハウについて情報が得られた
- ・子育てがラクになった
- ・子育てが辛いのは自分だけではないと思えるようになった
- ・特に変わらない
- ・その他（ ）

14 広場があって良かったと思うことは？

15 来年度も広場を利用する予定ですか

- ・はい
- ・いいえ 理由（ ）

16 あなたにとって子育ては？

- ・とても楽しい
- ・どちらかというと楽しい
- ・時々楽しいと思う
- ・あまり楽しいと思えない
- ・楽しいと思えない

17 子育てで 子どもにイライラすることありますか？

- ・いつもイライラしている
- ・よくイライラする
- ・たまにイライラする
- ・あまりイライラしない
- ・イライラすることはない

18 広場に来ることで、イライラが減少すると思いますか？

- ・とてもそう思う
- ・そう思う
- ・ときどきそう思う
- ・あまり変化はない
- ・よりイライラすることがある
- ・理由（ ）

19 子育てで 不安や悩みがありますか？

- ・はい (よければ、内容を教えてください)

・いいえ

20 子育ての不安や悩みは、誰かに相談していますか？

- ・はい → 誰に相談をしていますか？ (複数回答可)

- |                      |                 |               |
|----------------------|-----------------|---------------|
| ・配偶者 (パートナー)         | ・自分の親や兄弟姉妹      | ・友人           |
| ・配偶者 (パートナー) の親や兄弟姉妹 |                 | ・カウンセラー       |
| ・電話相談                | ・幼稚園 (保育園) の先生  | ・広場の子育てアドバイザー |
| ・八尾市の相談機関            | ・インターネットやアプリを利用 |               |
| ・その他 ( )             |                 | )             |

・いいえ (理由)

21 実際に子育ての助けになる人は身近にいますか？ (複数回答可)

- |                    |                 |              |
|--------------------|-----------------|--------------|
| ・配偶者 (パートナー)       | ・自分の母           | ・自分の父        |
| ・配偶者 (パートナー) の母    | ・配偶者 (パートナー) の父 | ・自分の兄弟姉妹     |
| ・配偶者 (パートナー) の兄弟姉妹 |                 | ・妊娠前からの友人    |
| ・妊娠、出産後からの友人       | ・広場で知り合った友人     | ・近所の人        |
| ・保育所 (園) 幼稚園の先生    | ・広場の子育てアドバイザー   | ・ファミリーサポートの人 |
| ・その他 ( )           |                 | ・誰もいない       |

22 配偶者 (パートナー) がいる方にお聞きします。あなたと配偶者 (パートナー) の子育てにかかる割合はどれくらいだと感じていますか？

あなた ( ) : ( ) 配偶者 (パートナー) 記入例 7:3

23 理想としては、子育てにかかる割合は、どれくらいが望ましいですか？

あなた ( ) : ( ) 配偶者 (パートナー) 記入例 6:4

24 あなたは育児休業をとりましたか

- ・取った ( ) 日・週間・ヶ月・年)
- ・現在利用中 ( ) 日・週間・ヶ月・年)
- ・いいえ (理由)

25 配偶者 (パートナー) がいる方にお聞きします。配偶者 (パートナー) は育児休業をとりましたか

- ・取った ( ) 日・週間・ヶ月・年)
- ・現在利用中 ( ) 日・週間・ヶ月・年)
- ・いいえ (理由)

26 男性が育児休業を取ることについてどう思いますか

・できれば取ってほしい

- ・ぜひ取ってほしい
- ・とれるなら取ってほしい
- ・いらない (理由)

全広場共通のアンケートは以上です。ご協力ありがとうございました。